

事項六 中国へノ兵器供給ニ関スル件

一七三
一月十九日
内田外務大臣ヨリ
在中国小幡公使宛（電報）

張作霖ノ泰平組合ニ対スル軍用品発注ニ関連
シ武器供給禁止協定ノ適用範圍査報方訓令ノ
件

附記 奉天講武學堂所要品輸出ニ関スル件

第四七号

今般泰平組合ニ於テ張作霖ヨリ奉天講武學堂ノ教育用品トシテ約六十種ノ軍用品（尤モ銃器彈藥ヲ含マス主トシテ土工具電信電話測量機ノ類ニシテ數量モ大ナラス價格全部ニテ約二万円位ナリトノコト）ノ注文ニ接シタル趣ニテ右輸出ニ関シ当省ノ意嚮伺出テタル処曩ニ外交団ニテ飯盒ノ如キモノモ武器供給禁止協定ノ適用ヲ受クルモノナリト云フカ如キ広汎ナル解釈ヲ採リタルコトモアル趣ナルノミナラス殊ニ支那目下ノ時局ニ顧ミ外間ノ疑惑ヲ招ク虞モ可有之ニ付之カ許否ハ固ヨリ考慮ヲ要スルモ泰平組合ノ既定契約ニ係ル武器ハ御承知ノ如キ始末トナリ居レルニ拘ラス伊国

側ノ協定違反事件ニ対スル各国側ノ制裁ハ兎角不徹底ニ了ルノ嫌モアル際ニ付本件軍用品ハ其數量性質共ニ比較的危险性少キニ顧ミ若シ相当理由立ツニ於テハ之ヲ許可スルモ差支ヘナキヤニ思考セラルルニ付テハ前記外交団ノ解釈ノ内容ヲ取調ヘラルルト同時ニ篤ト御考慮ノ上何分ノ御回電アリ度ク尚御裁量ニ依リ外交団ノ意向ヲ内探セラルルモ一策カト思考ス

(附記)

奉天講武學堂所要品輸出ニ関スル件（亜細亞局第一課調）

一月十三日泰平組合店員來省曩ニ張作霖ヨリ貴志少將ヲ通シ奉天省講武學堂教育用品トシテ別紙品目表ノ通注文ニ接シタルカ（価格全部ニテ二萬円位）支那ニ於ケル陸軍官憲外ニテハ右ハ列國申合ニ違反セストノ意見ニシテ又支那政府ヨリ護照ヲモ得ル手筈トナリ總稅務司ノ了解モ得居リ内務（一省ニテモ輸出ニ差支ナカルヘシトノ意見ナルカ一応外務省ニ經伺ノ要アリト存シ來省セリト述ヘ尚注文品ハ民間ニテ出來ルモノモアルモ泰平組合ニテ取擷困難ニテ陸軍側ニテ

取揃呉レルコトニ話合付キ居レリト附言セリ

右ハ数量モ大ナラス品目雜多ニシテ使用目的ニ偽ナカルヘ
シト思ハルルモ講武学堂ナル一種ノ軍事機關ニ仕向クルモ
註ノナルノミナラス実戦用ニモ使用シ得ヘキモノナル処往年
外交団ニテ飯盒ノ如キモ輸入禁止ノ範圍ニ入ルモノナリト
云フカ如キ広汎ナル解釈ヲ採リ居ル趣（此ノ点確實ニ記録
ノ徴スヘキモノナシ）ナルノミナラス目下ノ支那政局ニ顧
ミ少クモ他国側ノ疑ヲ招ク虞アリト認ムルニ付之ヲ許可ス
ト決定ストモ暫ク時機ヲ俟ツカ又ハ一応小幡公使ヲシテ外
交団ノ諒解ヲ取付ケシタル後之ヲ許可スルコト必要ナリト
思考ス

(欄外註記)

「特ニ之ニ応ズル必要ナキノミナラズ一旦之ニ応ゼンカ数量ヲ誇大ニ吹聴セラルルコトモ可有之其他各種ノ「トラブル」簇生スル虞アリ況ヤ裏面ノ魂胆不可図故ニ少クモ差当リハ応ゼザルヲ可トス（小林印）」

二 「数量如何ノ問題ニ非ズ主義ノ問題ナリ（木村）」

(別紙)

奉天講武學堂所要品三井洋行送り品目表

六 中国への兵器供給ニ関スル件 一七三

品目	員數	品目	員數
鶴嘴	一〇	小斧	四
丸匙	二	土鉈	一
十字鋏	二	土搔	二
山鋸	二	土鉋	一
鐵線	四	折疊鋸	一
卷尺	一	大槌	二
燕尾鎚	四	導火	四
丸匙	二〇	小ペン	四
玄火點火器	二	大ペン	四
導火線	二	線卷	四
導電點火器	六〇米	懷中電圧電流計	八
導通試驗器	一	調線	三
抵抗抗器	一	電線掛	四
護謨テッブ	一〇	電線摺	二
牛舌鋒	二	梯子	二
同準器	二	革胴	四
水電機器	一	被覆線接統器	一〇
電話機	六	天幕	小形三四組
被覆線	一卷	鞍統	五〇
水袋	一〇	接統線	中
旅囊	一〇	同統	小
測量器	一	受筒	一一
担架	八	丸匙	一二

荷造	荷鞍	五〇本	八
丸匙	小	一〇〇	測
鶴嘴	小	一〇〇	測
折量	小	一〇〇	測
小斧	六倍	二〇〇	同
双眼鏡	八倍	二〇〇	同
被覆線	二卷	二〇〇	同
絡車	二	二〇〇	同
線掛	二	二〇〇	同
被覆線	二	二〇〇	同
鶴嘴	二	二〇〇	同

一七四 一月二十日 内田外務大臣ヨリ
在奉天赤塚総領事宛（電報）

張作霖ノ兵器供給要請ニハ応シ難キ旨回訓ノ件

第七号

貴電第二〇号ニ関シ此ノ際張ノ希望ヲ容レ之ニ武器ヲ供給スルカ如キハ一方対支武器供給停止ニ関スル列国間協定ノ違反タルハ勿論他方帝國政府ガ從來屢々声明シ且恪守シ来レル不偏不党内政不干渉ノ方針ニ背馳スルモノナル処小幡公使発本大臣宛電報第二二号同公使意見ノ通支那ニ於ケル

末ニ付現下ノ情勢ニテハ乍遺憾張ノ申出ニ応スルヲ得サル旨程好ク回答シ置カレタシ
在支公使へ転電アリタシ

一七五 一月二十一日 内田外務大臣ヨリ
在中国小幡公使宛（電報）

曹錕力入手セル伊国武器ノ内乱利用防止方法

二関シ講究方ノ件

第五〇号

客年往電第七七四号伊国武器ニ関スル羅馬ニ於ケル交渉ハ或ハ容易ニ要領ヲ得ルコト困難ナルヤモ計リ難ク然ルニ武器ハ已ニ曹錕ノ手ニ入り此儘放任セバ奉直対峙ノ現状ニ顧ミ或ハ今後内乱ノ為使用セラルルヤモ難計処万一如此場合ニハ是レ明ニ関係国間武器禁輸協定ノ趣旨ニ違反スルノミナラズ米國ニ於テモ特ニ支那ノ為メ内乱国ニ対シテ武器輸出禁止ノ法案ヲ通過セリトノ情報アリ（別電参照）又現ニ張作霖ノ武器供給希望ニ対シテハ在奉天總領事宛往電第七号ノ通り帝國政府ニ於テ頗ル公正ノ態度ヲ持シ居ル際ニテモアリ旁々何等カノ方法ニ依リ更ニ貴地外交団ノ問題トナシ華府會議決議対支四大原則ノ趣旨ニ鑑ミ本件武器力具備孚ノ手ニ依リ直ニ支那内乱ノ為メ利用セラルルコトヲ防止

六 中国への兵器供給ニ関スル件 一七五 一七六

権力興廃ハ必スシモ軍備及資金ノ大小ノミニ依リ決スルニアラズ所謂人氣ナルモノ重大ナル影響アルニ鑑ミ張ノ将来ニ対シテハ俄ニ樂觀ヲ許ササルモノモアリ從テ我方ノ援助モ果シテ幾何ノ効果ヲ収メ得ヘキモノナルヤモ頗ル疑問ナルノミナラス之ガ実行ニハ我方ニ於テ多大ノ危険ヲ冒ササルヘカラス蓋シ右事実カ外間ニ曝露サレシテ了ルカ如キハ到底予期シ得サル所ニシテ又馬賊討伐ノ必要云々ノ口実ヲ以テ世間ヲ瞞着シ得ヘキモノニモアラサルハ勿論或ハ張ニ於テ自家擁護ノ必要上自ラ誇大ニ日本ノ援助アルコトヲ吹聴スルカ如キモ亦絶無ヲ保セサルヘシ何レニモセヨ一旦其ノ事実ニシテ曝露セムカ我外交上ノ立場ニ累ヲ及ホスコト些少ナラサルヘキノミナラス目下支那政局紛糾ヲ極メ其ノ帰趨測ラレサルニ顧ミ此際ニ於ケル帝國ノ態度ハ頗ル慎重ヲ要スルモノアリ旁々帝國政府ニ於テハ少クトモ差当リ前記帝國從來ノ方針ニ變更ヲ加フル必要ヲ認メサルニ就テハ貴官ハ以上ノ趣旨ヲ含ミ張ニ対シテハ彼ノ立場ハ我方ニ於テモ諒トセサルニアラサルモ何分ニモ前記列国間協定モアリ又最近伊国側武器協定違反事件アリテ關係国ヨリ伊國政府ニ抗議ヲ申込ミ目下列国間ノ問題トナリ居レル様ノ始

スルノ方法ヲ講究スルコト可然ト思考セラルル処本件ニ関シ一応貴見御回電アリ度シ
註 別電省略

一七六 一月二十一日 内田外務大臣ヨリ
在奉天赤塚総領事宛（電報）

張作霖ニ対スル陰密裡武器供給ニ異議ナキ旨

小幡公使ヨリ陸軍側ニ表示セラレタル由ニ付

問合ノ件

第九号

在支公使へ左ノ通り転電アリタシ

第五一号

在奉天總領事発本大臣宛電報第二〇号ニ関シ

貴館附武官ヨリ陸軍側へノ電報ニ依レバ（支第三号）貴官ハ武器供給中止ニ関スル協定ニ累ヲ及ホササル範圍ニ於テ我滿洲駐屯軍用ノ名義ニテ兵器ヲ滿洲ニ輸送シ必要ニ応シ陰密ニ之ヲ張作霖ニ交付スルコトニ異議ナシトノ意嚮ヲ有ス云々トアリ關東軍參謀長ヨリノ電報ニモ貴官ハ町野ニ何等カ武器密輸ノ方法アルベキニ付赤塚總領事ト協議スヘキ旨ヲ申含メタリトアリ右ハ根拠アル次第ナリヤ為念回電アリタシ

一七七 一月二十四日 内田外務大臣ヨリ
在奉天赤塚総領事宛（電報）

張作霖への兵器供給ハ不可ナル旨並英米公使
ト兵器問題ニ関シ意見交換方訓令ノ件

第一二二号（至急）

小幡公使へ転電アリタシ

第五八号

貴電第四〇号ニ関シ

一、往電第五〇号及赤塚宛第七号等ニテモ御承知ノ通支那
時局ニ対シテハ政府ハ不偏不党ノ態度ヲ変セス又張作霖
ニ対シテハ貴電第二二二号御意見ノ通り昨年五月末所謂滿
鮮會議ノ議ニ上リ閣議ヲ経タル張ガ中央政界ニ野心ヲ遂
クルカ為メ帝國ノ援助ヲ求ムルニ対シテハ進ンデ之ヲ助
クルノ態度ヲ執ラサル既定方針ニヨリ措置シテ武器ノ
供給ノ如キ列國協調ノ趣旨ヲ恪守シ居ル処若シ此際等は
既定方針ヲ逸脱スルカ如キコトアランカ日本ハ援段政策
ニ代フルニ援張政策ヲ以テシ支那民衆ノ輿望ニ反スル北
方ノ軍閥竝其一味ヲ擁護シテ支那内乱ヲ助長スルモノナ
リトノ非難ヲ受ケ世界輿論ノ攻撃ノ下ニ結局我滿蒙ノ地

ノ次第モアルニ付貴官ハ至急英米公使ニ会见シ先ツ支那
時局ニ対スル我公正ナル態度特ニ張ニ対スル方針ニ付詳
細説明ヲ与ヘ進ンテ今後トモ絶エズ腹藏ナキ意見ヲ交換
シ可成各国共同ノ措置ニ出デ度キ旨申入レ充分英米側ノ
意向ヲ聴取シ結果電報アリ度シ尚適當ノ機會アラバ往電
第五〇号伊國武器ノ善後策ニ付協議セラレ度シ
三、出先陸軍官憲（貴志及東莞陸軍省着電報）ニ於テハ此
際何等カノ方法ニ於テ張ニ武器ヲ供給シ以テ彼ヲ援助シ
張ト我トノ關係ヲ密接ニシ度意向ノ如ク見受ケラルルモ
政府ノ方針ハ前記ノ通りナルニ付彼等ニ於テ之ト矛盾ノ
措置ナキ様充分御配慮アリ度シ

一七八 二月十二日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

南京交渉員溫世珍ノ奉直兩派ニ対スル我方態
度打診ニ関スル件

第九〇号

（二月十三日接受）

南京交渉員溫世珍ハ兼テ本使ト熟知ノ間柄ナル処今回華盛
頓會議ヨリ帰來セリトテ挨拶旁々昨十一日来訪シ同會議ニ
於ケル筋書ハ何レモ前以テ英米打合せノ上ニテ為シタル芝

位ノ根底ニ動揺ヲ來スノ虞アルノミナラス却ッテ結局張
作霖自身ニ対シテモ不利益ノ結果ヲ招クコトナキヲ保セ
ス何レニシテモ張目前ノ利害ノ為ニ我永遠ノ不利ヲ忍ブ
能ハサルハ勿論ニシテ若シ日本ガ張ヲ援クル結果之ニ刺
戟セラレ英國側ニ於テモ一層露骨ニ吳ヲ支持スルノ態度
ヲ執ルニ到ラバ茲ニ張吳ノ爭鬭ヲ介シテ支那ニ於ケル日
英米ノ暗闘ヲ惹起シ其結果直接支那ニ於ケル政治上竝通
商上我ノ蒙ル損害計ルヘカラサルモノアルト共ニ世界大
局ノ上ニ受クル我損害モ亦尠シナラサルベシ
二、吳佩孚ニ対スル英米側ノ好意ナルモノ果シテ如何程ナ
リヤ明瞭ヲ欠クモ貴電第四〇号ノ次第モアリ且又世間一
般ハ吳カ英米ノ同情ヲ得居ルヲ信シ日本ノ張支援ニ関ス
ル猜疑ト共ニ支那時局ニ対シ益々不安ヲ懷カシムルモノ
ノ如シ就テハ此際貴官ニ於テ列國使臣特ニ英米公使ト時
局ニ関スル意見ヲ交換シ意思ヲ疏通シ置クコト喫緊ト思
考セラル特ニ我對支政策就中我ノ特殊關係ヲ有スル滿蒙
ニ於テモ我ニ於テ上記ノ如ク極メテ公正ナル態度ヲ持シ
居ル今日他外國ノ猜疑ヨリ誤解ヲ受ケ引イテ事態ヲ紛糾
セシムルカ如キハ我ノ忍フ能ハザル所ニ付貴電第四〇号

居ニテ結局極東ニ於ケル日本ノ勢力排斥ヲ企テタルモノナ
ルコト、窮極スル所日支ノ間ニ最善ノ諒解ヲ遂グルニアラ
ザレバ極東各国ハ英米其他白人ノ食ヒ物トナルベキコト等
ヲ最モ痛切ニ感シタリトテ縷々右ノ觀察ヲ証拠立ツル事例
ヲ叙説シタル上日本ガ支那トスル諒解ヲ遂クルニハ先以テ
國民大多數ノ同情ト後援アル直隸派系統ト充分胸襟ヲ開キ
意志ノ疎通ヲ図ラザルベカラズト説キ起シ若シ日本ニ其ノ
意思アルニ於テハ曹錕始メ直隸派ハ充分日本ト諒解ヲ遂ゲ
タキ意嚮ナルヲ告ゲ、日本政府若クハ本使ニ於テ何等意見
アラバ及バズ乍ラ自分ニ於テ仲介ノ勞ヲ採ルヲ辞セズト述
ベ最後ニ將來方一奉直ノ間ニ干戈ヲ交ユルガ如キ場合ニハ
日本ガ奉天側ニ加勢スル様ノコトナキヤヲ懸念シ念ヲ押シ
タルニ付本使ハ之ニ対シ前内閣時代ニハ或ハ外間ヨリ安福
派ヲ声援セリトノ批評ヲ受クルモ已ムヲ得ザル事態アリシ
ヤモ知ラザルモ現内閣ニ至リテハ終始一貫不偏不党何レノ
党派ニモ寸毫ノ声援ヲ与ヘザル方針ヲ確守セルハ内外共明
カニ看取セル所ナリ然ルニ一昨年夏安直戰爭ノ際實際ノ真
相ヲ糾サズ直隸派ニ於テ一途ニ日本ノ態度ヲ疑ヒ今以テ其
ノ疑念ノ氷解セザル模様アルハ本使ノ平常深ク残念ニ思ヒ

居ル所ニシテ何等カノ機会ダニアラバ呉佩孚其他ニ対シ其ノ誤解ヲ正シ度ク考へ居リタル次第ナルガ故ニ近日温氏ガ保定及洛陽ニ赴カルル機会ニ是非本使直接ノ伝言トシテ右ノ次第ヲ転達セラレ同時ニ一昨年安直開戦ノ際ニ於ケル日本ノ敵正ナル中立態度ハ實際ニ付之ヲ調査スレバ直チニ判明スル次第ニシテ日本ノ此方針ハ今日モ将来モ尚一貫シテ変ラザル所ナリ

或ハ保定側ニ於テ日本ガ張作霖ニ後援スル様ノコトナキヤヲ懸念セラルルモ之ハ全然杞憂ニシテ断ジテ如スキコトナキヲ確言ス唯望ム所ハ日本ノ名誉ヲ傷ツケントスルガ為メ如スキ流言ヲ放ツモノ有ル無キヲ保シ難キニ付充分之等ニ惑ハサレザルニアル旨ヲ本使ノ所言トシテ伝へ置カレタシト陳述シタリ

温ハ本使ノ言ニ謝意ヲ表シ本使ノ所説ハ直ニ曹錕等ニ伝達スヘシト約シ引取りタリ、右温世珍ハ直隸人ニシテ純然タル直隸派ニ属シ江蘇督軍幕下ノ人物トシテ相当同派ノ枢機ニ参ジ居ルモノト考へラル、其ノ今回本使ヲ来訪シタルハ兼テ深沢領事ヲ經、其ノ会见ヲ通ジ来タリ居リ其後着京後北京、保定、天津ヲ往復シタル後ノコトニシテ其等ノ事情

大正十一年二月二十四日

在天津

總領事代理 八木 元八(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

張作霖軍器購入ノ風説ニ関スル件

奉直兩軍ノ代理者ガ当地外国人側ヨリ武器ヲ購入セント奔走シ居ル次第ハ既ニ御承知ノ通りニ有之候処先般来当地ニ於テ張作霖ノ代理本邦商ヨリ武器購入ノ契約ヲナセリトノ風説アリ地方新聞ニモ類似ノ記事掲載サレタルニ依リ右風説ノ起リヲ探查セシメ候処当地茂木洋行茂木彦九郎ナルモノ張宗昌ヨリ依頼ヲ受ケ本邦陸軍ノ廢銃ヲ暹羅ニ向ケ輸出シ同国ヨリ再ビ張作霖ニ売渡ノ形式ヲ取り支那ニ再輸出セント計画セシモ成功セザリシニヨリ更ニ米国人ト協議シ曾テ米国軍隊ガ西比利亞ヨリ撤退ノ際浦沙ニ殘留セル兵器中小銃一万挺、機関銃四十挺、野砲八門、山砲二十四門、小銃彈一千万発、機関銃彈二百万発、砲彈一萬六千発ヲ購入ノ契約ヲナシ其ノ代価ハ兵器積出ノ際現金ニテ仕払ノ筈ナリト本人ニ於テ人ニ語リタルコト判明セルニヨリ昨日、本人ヲ呼出シ事實取調候処本人ハ兩三日前当館警察官ニ対

六 中国への兵器供給ニ関スル件 一八〇

ト同人ノ所言ニ顧ミ本使ノ想像ニシテ当レリトスレバ右来訪ハ曹錕其ノ他ノ承知ノ上ノコトナル可ク恰モ一昨年安直戦争前曹錕ヨリ辞ヲ卑フシ聘ヲ厚フシ切リニ我在天津領事ニ秋波ヲ寄せタルト同巧異ノ手段ト外考ヘラレズ而シテ此ノ想像ニシテ当レリトスレバ直隸派ハ近キ将来ニ於テ張作霖ト一戦ヲ試ムルノ決意ヲ定メ着々其ノ準備ニ取掛リツツアルモノト推定セザルヲ得ズ現ニ支那新聞中洛陽ノ状況ヲ報ジ「草囑皆兵」ト評スルモノアルハ長江ノ兵ガ北送云々ノ説ト共ニ呉佩孚用意ノ在ル処ヲ語ルモノニ非ズヤト考フ叙上ノ觀察ト共ニ段祺瑞南行ノ報道ハ昨今表面上時局ガ幾分緩和シツツアルノ感アルニ拘ハラズ裏面ニ於テ戦争ノ準備、合縱連衡ノ策略盛ニ行ハレ居ルモノノ如ク聽テハ兩派ノ間ニ戦争ノ破裂ヲ見ルノ形勢ニ立チ至ラズヤト觀察セラ

一七九 二月二十四日 在天津八木總領事代理ヨリ
内田外務大臣宛

張作霖及天津邦商間武器購入契約成立説ニ関

シ報告ノ件

機密第二四号

(三月三日接受)

シテハ右ノ如キ事実アルヤニ語リタル趣ナルモ本官ニ対シテハ奉天軍代表者ヨリ武器購入ノ商談ヲ受ケタルコトハ事実ナルモ其ノ供給不可能ニ付何等纏リタル協議ヲナシタルコト無之趣明言致候

右茂木洋行主茂木彦九郎ハ無資産無信用ノ人物ニシテ種々大袈裟ノ話ヲ諸方ニ持廻リ居ル虚業家ニ有之右話モ本人ガ為ニスル所アリ誠シヤカニ諸方面ニ内話シ歩キタルモノト認メタルニヨリ本人ニ対シテハ本官ヨリ戒飭ヲ加ヘ置キ候右及報告候 敬具

本信写送付先 在支公使

一八〇 三月二十一日 在上海船津總領事ヨリ
内田外務大臣宛

小川丸積載陸榮廷軍宛彈藥処分ニ関シ稟報ノ

件

附記 三月十六日附在上海船津總領事ヨリ田中外務次官及芳沢重細亞局長宛書翰
小川丸搭載ノ彈藥、湖南趙恒惕供給計画ニ関シ事情具申ノ件

機密第一〇七号

(三月二十九日接受)

大正十一年三月二十一日

在上海

総領事 船津 辰一郎(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

小川丸積載彈藥処分ニ関シ稟報ノ件

客年六月中広西ニ在リシ陸榮廷ノ軍ニ供給スル為メ小川丸ニテ輸送シ来リシ彈藥百二十五万発ハ當時当地税関倉庫内ニ抑留保管中ノ処最近ニ至リ松滬護軍使何豊林ハ之ヲ護軍使署附近ニ於ケル兵工廠(陸軍部直屬)ニ移シ其数ヲ点檢ノ上之ヲ陸軍部ニ報告シ其俱同廠内ニ保管中ノ趣各支那新聞ニ掲載セラレ居候ニ付其真相取調候処護軍使署汪參謀長及陸秘書ノ語ル処ニ依レバ右彈藥ハ税関倉庫ニ入レテヨリ已ニ八九ヶ月ヲ経過シ荷造其他ニ多少手人レノ必要アルヲ以テ兵工廠ニ引取りシモノニテ早晚北京政府ノ命ニ依リ北京ニ送ル事ト為ルベシトノ由ニ有之且ツ右彈藥ヲ二分シ護軍使及第四師団(杭州ニ駐屯シ其一部ハ当地護軍使署附近ニ分駐ス師団長ハ陳榮山ナリ)ニ一半宛ヲ供給セリトノ説アルヲ質シタルニ極力否認致シ居リ前記新聞記事ハ事實ナリト認メラレ候尚ホ右陳榮山ノ小林少佐ニ語リタル処ニ依レバ上海ニ於テ右彈藥ヲ湖南趙恒惕ニ供給セント運動セル

那新聞ノ如キモ直ニ之ヲ記載シ居リテ我陸軍ニ對シ一般支那人ニ甚ダ疑惑ヲ懷クニ至リ候次第ハ更ニ本月十日往電第五五号ヲ以テ報告ノ通りニ有之候処此ノ成行(二月二十三日及同二十七日時事新報上海特電參照)ハ時事新報当地通信員ノ通信ト相俟チ我陸軍側殊ニ支那ニ於ケル駐在武官ニ甚タ迷惑ヲ及ホシタルカ如ク然モ之カ根本ノ原因ハ小官ノ報告ニ在リト解セラレ当地駐在武官等ヨリモ屢々小官ニ質問スル処有之小官ハ一々真相ヲ説明シツツアルカ尚ホ本月十日在北京「新支那」紙ノ如キハ「外務省ノ軍閥攻撃ト陸軍側ノ憤慨」云々ト題シ実ニ別紙切抜ノ通り本件ノ責任ハ明カニ小官ニ在ルガ如ク叙述致居リ候然ルニ往電第四七号ハ支那現下ノ政況ヲ推測スルニ資スル為当地ニ於テ支那政客ノ或ル者カ時局ニ對シ採リツツアル行動ヲ主トシテ報告セルモノニテ尚ホ之ニ関連シ右行動ニ干与セル岡田ニ注意ヲ加ヘシ事實ヲ附言セシニ過キス右行動ト我陸海軍側トノ關係ニ於テ海軍側ニハ援助ヲ依頼セシモ之ヲ拒絕セラレ陸軍側ニハ岡田ヲ介シテ依頼セシモ之カ拒否ノ事實ニハ毫モ言及セサリシモノナルコト一読明瞭ニ有之候処右情報ハ直ニ外間ニ漏レ更ニ我駐在武官カ岡田ヲ通シ趙恒惕ニ軍器供

支那政客数人アリシモ右運動ハ遂ニ失敗ニ終リシハ事實ナリトノ趣ニ候右御參考迄及稟報候 敬具

本信写送付先

在支公使、杭州領事

(附記)

三月十六日附在上海船津總領事ヨリ田中外務次官及芳沢亞細亞局長宛書翰

小川丸搭載ノ彈藥、湖南趙恒惕供給計画ニ関シ事情具申ノ件

拝啓御動履益々御清穆奉慶賀候陳者先般当地ニ於テ旧交通系ト關係アル同豊公司黃篤謐等カ小川丸搭載ノ彈藥百七十万発ヲ湖南趙恒惕ニ供給スル計画ヲ以テ之カ援助方ヲ我陸海軍側ニ依頼セント試ミタル次第客月二十五日往電第四七号ヲ以テ報告致置候処其後本月四日ノ大阪毎日新聞ハ東京電話トシテ「我駐支武官中南方側ヘ武器供給ヲ策スル者カアル」云々ト題シ我陸軍側ノ支那時局ニ對スル態度ヲ攻撃シ其内前記小川丸彈藥ノ件ヲ引用シテ我某武官ハ大倉組ノ代理者岡田有民氏ヲ通シテ右彈藥ヲ趙恒惕ニ供給セント図リツツアリ云云ト述ヘテ我陸軍側ノ態度ノ不正ヲ立証シツツアリ右ノ記事ハ各方面ニ於テ深甚ノ注意ヲ惹キ当地支

給ヲ策シツツ居ルカ如ク誤伝セラレ小官情報ノ目的カ恰カモ陸軍攻撃ノ資料ヲ供給スルニアリタルカ如ク見做サルルニ至リシモノニテ小官ノ甚タ意外トスル処ニ有之候惟フニ本件ヲ玆ニ至ラシメシモノハ本邦ニ於テ小官ノ情報カ直ニ外間ニ漏レ然カモ事實顛倒セラレテ所謂軍閥攻撃ノ具ニ利用セラレシニ在ルコトハ殆ト明カナル事実ト認メララルル処刻下当国ノ現状ハ何レモ日本ニ對シ甚大ノ注意ヲ払ヒ居リ支那新聞ノ如キ日本ニ関スル目新シキ事實ハ興味ヲ以テ一々之ヲ記載シ居ル際ナルヲ以テ本件ノ如キモ直ニ支那人ヲ驅ツテ支那時局ニ對スル日本ノ態度ヲ疑ハシメシニ止マラス今日ニ於テハ帝國政府部内カ如何ニモ不統一ナルカノ如ク思惟セシメツツアル遺憾ナル結果ヲ生シタルヤニ認メラレ從ツテ小官等所謂出先官吏ノ立場ヲシテ甚ダ困難ナラシムル次第ニ有之候一方予テ大臣ノ御訓令ヲ体シ支那時局ニ関シ協調ノ態度ヲ以テシ情報等ニ就キ遺憾ナキヲ期シ居ル小官並ニ我駐在武官ノ關係ヲ誤解ニ導キ隔意ナキ情報ノ交換ノ如キ全ク期待シ得ラレサルニ至ル次第ニテ此点特ニ遺憾ニ存シ居リ候現ニ往電第四七号ノ事實ヲ小官ヘ内報シタル北岡少佐ノ如キ小官ニ對シ甚タシキ迷惑ヲ蒙リタル旨申

居リ候

本件ハ今日トナリテハ其錯誤ノ那邊ニ在ルカヲ詮索スルモ最早詮ナキ次第ナルカ小官トシテハ今後尚ホ前頭ノ如キ誤解ヲ被ムリ居ルコトハ直ニ執務上ニモ差支フル次第ニ候間右ノ事情御諒察ノ上誤解ノ向々ニ対シ此際適宜事情枳明方御取計相煩度此段及御依頼候 敬具

大正十一年三月十六日

在上海

総領事 船津 辰一郎(印)

田中 外務次官殿

芳沢 亜細亜局長殿

追而本信ヲ小幡公使ニ送り公使ノ御裁量ニ依リ之ヲ東少將ニ内示セラルル事ニ依頼致置候間右為念申添候

一八一 四月三十日 在広東藤田総領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

孫文申込ノ日本船ニ依ル彈薬輸送差止手配方

稟請ノ件

第九五号

(五月一日接受)

拙電第九二及九四号ニ関シ

往電第六一号ニ関シ

五月二十二日極東部長ハ國務長官ノ命ニ依リ対支武器輸出禁止ノ件ニ関シ左ノ通語レリ

一、本件ニ関シ在伊米國大使ヲシテ交渉セシメタル所伊國外務省ハ四月十一日附ヲ以テ支那ニ於ケル伊國ノ兵器及軍需品ガ支那人ニモ亦其仲買者タル何國人ニモ売渡サルコトナキ様取計済(閣下宛在伊大使電報第七八号ニ同ジ)ナル旨回答シ来レルヲ以テ更ニ在伊大使ヲシテ右ハ一九一九年五月五日ノ協同宣言以前ノ契約ニ係ルト其以後ノ契約ニ係ルトヲ問ハザルノ趣旨ナリヤ念ヲ押サシメタル所伊國外務省ハ協同宣言ノ前後ヲ問ハズ一切ノ契約ニ基ク引渡ヲ為サシメザルベキ旨ヲ言明シタル趣同大使ヨリ電報(大使電報ノ日附ハ四月十八日)アリタリ

二、華府會議ニ於テ本件ニ関シ協定ヲ見ルニ至ラザリシハ伊國留保ノ為ニシテ日本モ伊國ノ留保ニ顧ミ同意ヲ差控ヘラレタル次第ナルガ今回伊國ニ於テ事実上留保ヲ撤回スルコトトナリタルニ付テハ日本政府ニ於テモ華府會議ノ最終案(セネート、ドキュメント、一二六頁七三七所載)ヲ諸國間ニ於テ協定スルコトニ異議ヲ有セラレザルコトト思

田中ハ孫文ノ申込ニ対シ傭船料一日金貳千円トシ別ニ抑留若クハ爆発ノ場合ヲ予想シ保証金拾五萬元ノ積立ヲ条件トシテ長府丸ノ提供ヲ承諾シ来リ日高ハ此条件ヲ以テ目下孫文ト交渉中ナリ田中ノ電報ハ平文ニテ武器密輸送云々ノ字句ヲ用ヒ門司三井支店長島田氣付ニテ門司ヨリ発セラレタル趣ニ付至急門司電信局ニ御移牒ノ上本件往復電報ノ写ヲ徴シ之ヲ証拠トシテ田中ニ対シ差止メ命令ヲ発セラルル様御取計相成タシ

本件情報モ前回同様堀田ノ内報ニ依ルモノナル処同人ノ立場ヲ重シ堀田ノ名前ハ極秘ニ附セラレタシ尚ホ田中ハ床次内相及藤村男等ト平素密接ノ間柄ナル趣ニ付御参考ノ為申進ス

在支公使へ電報セリ

一八二 五月二十三日 在米國佐分利臨時代理大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

对中国武器輸出禁止ニ関スル華府會議最終案

承認ニ関シ米國側ヨリ問合ノ件

附 記

右米國側ノ問合ニ対スル日本側ノ採ルべき態度

第三二六号

(五月二十四日接受)

考ス依テ此点ニ関スル日本政府ノ内意ヲ至急承知シタシ三、米國政府ハ日本政府ニ於テ右協定ニ異議ナキコトヲ確メタル上ニテ重ネテ伊國政府ニ照会シ英國其他ノ華府會議參列國竝支那ト条約ヲ有スル他ノ諸國ニ申入ヲ為ス積ナリ右ニ付何分ノ儀至急御回訓ヲ請フ

在欧洲各大使へ転電セリ

(附 記)

中国への武器売渡禁止ニ関スル米國側ノ問合ニ対シ日本側ノ採ルべき態度

在米國佐分利臨時代理大使来電第三二六号ニ就テ

(亞細亜局第一課作成調書)

本件ニ関スル華府會議最終案ハ實質上大正八年四月二十六日ノ北京外交団決議ト何等ノ差異アルヲ見ス從テ此ノ際新規ノ協定ヲ結フト否トハ從來ノ帝國ノ立場ニ何等ノ變動ヲ及ホスモノニアラス

只此ノ際考慮ヲ要スルハ帝國政府カ曩ニ英國政府ノ諒解ヲ得ントシテ得ル能ハサリシ既存契約ノ履行承認ノ問題ヲ此ノ機會ニ再ヒ提起スルノ可否如何ノ問題ナルヘシ元来本件協定成立以來外國側ニハ屢々右協定違反ノ事実ア

リタルモ違反国ハ単ニ他国ヨリ一片ノ抗議ヲ受クルニ止マリ之ニ依テ生シタル不衡平ノ事態ハ毫モ匡正セラルコトナクシテ終レリサレハ始終一貫シテ本協定ヲ恪守シ来レル帝国政府ハ本邦当業者ニ対シ頗ル困難ナル立場ニ陥リタリ之レ帝国政府力曩ニ既存契約履行承認ニ付列国ノ諒解ヲ得ンコトヲ努メタル理由ナリト雖英國政府ノ反対ニ遇ヒ失敗ニ終レルハ前述ノ如シ

然ラハ此ノ際更ニ本問題ヲ提起スルノ可否如何惟フニ本問題ハ之ヲ提起スルモ到底其ノ目的ヲ貫徹シ得サルヘシ何トナレハ他国側ニ從來幾多ノ違反事実アリタルモ何レモ曲リナリニモ多少ノ弁解言ヒ分アリ例ヘハ英國ノ飛行機供給ハ商業用トシテ輸入セラレタルモノカ軍事上ニ使用セラレタルモノニシテ米國商人ノ南方政府ニ供給セル兵器製造機械ハ普通ノ機械トシテ私人ノ船渠会社ニ仕向ケラレタリト云フカ如キ又伊国側ノ違反事件ニ付テハ伊国政府ニ於テ初メヨリ既存契約ニ付キ留保セリト為セルカ如キ我方ヨリ見レハ頗ル不都合ノ言ヒ分ナレトモ要スルニ水掛論ニ了ルヘシ然ルニ我方ノ提議ハ真正面ヨリ本件協定ノ一部ヲ無効トセムトスルモノナルノミナラス現下ノ支那政局ニ鑑ミルモ伊

ルヘキニ鑑ミ此ノ際ハ寧ロ淡泊ニ本件米國提議ニ賛同シ泰平組合ノ問題ハ別ニ之カ対策ヲ考究スルヲ以テ遙ニ得策ナリト思考ス

一八三 五月三十日 内田外務大臣ヨリ
在米國佐分利臨時代理大使宛(電報)

对中国武器禁輸ニ関スル問合ニ対シ回答ノ件

第二八七号

貴電第三二六号ニ関シ

我方ニ何等異議ナキ旨回答セラレ差支ナシ
在欧各大使ニ転電アリ度シ

註 右電信案冒頭余白ニ左ノ記入アリ

「大正十一年五月三十日閣議決定(内田大臣印)」

一八四 六月十九日 岸本関東庁警務局長ヨリ
壇原外務次官外各宛

張作霖ノ武器購入説ニ関シ申報ノ件

関機高収第七三四七号ノ三 (六月二十四日接受)

大正十一年六月十九日

岸本関東庁警務局長(印)

赤池拓殖局長官殿

六 中国への兵器供給ニ関スル件 一八三 一八四

国政府ハ兎ニ角自身ニ大ナル弱点ナキ英米仏等カ之ヲ容ルヘシトハ到底想像シ得サル所ナレハナリ

尤モ飽ク迄モ我主張ヲ貫徹セムトスルニアラスシテ単ニ我方ノ立場ヲ説明シ帝國政府力難キヲ忍ンテ本協定ヲ恪守シ来レル事実ヲ列国ニ印象スルタメ何等此ノ種ノ提議ヲ為スハ或ハ不可ナカルヘキモ翻テ考フルニ輕々ニ或ル提議ヲ為シ反対ニ遇ヒテ直チニ撤回スルカ如キハ実ニ帝國政府ノ誠意ヲ疑ハシムルモノニシテ大ニ考慮ノ要アリト思考スサレハトテ頑強ナル主張ヲ為スハ華府會議以來折角順潮ニ向ヒツツアル対日感情ヲ逆転セシムルノ患ナキヤ

況ンヤ本提議ニシテ容レラレスンハ新協定ニ参加セサルノミナラス(新協定ニ参加セストモ日本ノ立場ハ旧協定ノ存スル限り毫モ改善セラレス)進ンテ旧協定ヨリモ脱退スルノ態度ニ出ツルノ不可ナルハ多ク論スル迄モナカルヘシ要スルニ本提議ニシテ仮リニ列国ノ容ルル所トナルモ之カ為メ我方ノ受クル利益ハ僅カニ泰平組合ヲシテ多クモ数百万円ノ損失ヲ免レシムルニ止マルヘシ之レモ多少ナリトモ成功ノ見込アラハ兎ニ角如上ノ事情ナルヲ以テ到底其ノ望ミナク而モ動モスレハ其ノ大局ニ及ホス不利大ナルモノア

壇原外務次官殿

福原関東軍参謀長殿

峰関東憲兵隊長殿

張作霖ノ銃器購入説

本月十三日在奉天韓岡桂ナル者ノ語ル所ヲ聞クニ左ノ如シ
一、今回張作霖ノ親戚奉天悅来棧主祖章義ノ伝達ニ依リテ鉄嶺日昇洋行ヨリ小銃ヲ購入スヘク来リタルモ目下同店ニハ一挺ノ銃器モナク購入スルコト能ハス

二、過般奉天石本権四郎(石本鑽太郎ノ弟)ハ瀋州ニ於テ張作霖ト面会ノ際張使ニ対シ自分ノ兄鑽太郎ハ大連ニ在リテ日本ヨリ銃器ノ購入ヲ為シ得ルニ依リ信用アル支那人一二名ヲ予ト共ニ日本ニ派遣シ銃器ノ購入ヲ為シテハ如何ト云ヒタルニ張作霖ハ徐鉄珊ヲ選抜シ洋四百万円ヲ準備シ尚其外ニ日本人久保某(通称)ニ依頼シ渡日スル予定ナリシ処張作霖ハ先ツ在奉天赤塚総領事ト交渉ノ結果当分不可能ノ旨回答ニ接シ如何トモ為シ難キヲ以テ更ニ石本権四郎ハ浦潮ニ露国古品ノ大砲其他ノ銃器アリトテ本月初旬張作霖ヨリ所要ノ購入費ヲ受取り該地ニ出張シタルカ数日前本人ヨリ目下浦潮ニ現存スル軍器ハ全部

廃品ニシテ使用ニ不堪故ニ露国飛行機三台ヲ購入輸送スル筈ノ処米国人ニ発見セラレ輸送ヲ禁止セラレタル旨通知アリ石本ハ近々帰奉ノ筈ナリ云々

一八五 六月二十九日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛

對華米國武器供給説ニ関スル我方照会ニ対シ

米國公使館ヨリ回答ノ件

附屬書 六月十五日附在中国米國公使館ヨリノ覚書写

機密第二七一号 (七月八日接受)

大正十一年六月二十九日

在支那

特命全權公使 小幡 酉吉(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

米國商人ヨリ直隸軍ニ武器供給説ニ関スル件

本件ニ関シ曩ニ貴電合第一四〇号御来示ノ次第有之當時往電第二四八号ノ通り米國公使ニ対シ本件真否取調方依頼致置候処本月十五日米國公使館員吉田参事官ヲ来訪シ今日迄取調ノ結果ナリト別紙写ノ通覚書ヲ手交シ要スルニ奉直何レニ対シテモ米國武器供給ノ形跡無シト述ヘタルニ付吉

seen an American rifle used by either the Chihli or Fengtien forces.

2-The Legation has received no further reports or information from any other persons or sources stating that American rifles have been used.

3-As the Springfield (American) rifle has a bent bolt lever to close the breech for firing that is peculiar to this rifle, it would be quickly detected by any one at all familiar with service rifles.

4-Furthermore, if American rifles were received by either General Wu Pei-fu or General Chang Tso-lin, they would no doubt have issued them for use in the recent campaign just closing.

This Legation is still investigating the above mentioned report, and should any further information in the matter be received it will not fail to notify the Japanese Legation of the facts thereof.

一八六 六月二十九日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛

米國製飛行機売込ニ関スル我方照会ニ対シ米

國側ヨリ回答ノ件

機密第二七三号 (七月八日接受)

六 中国への兵器供給ニ関スル件 一八六

田参事官ハ当方ノ入手セル報道ハ必スシモ引渡済ト限り居レル次第ニ非ス交渉中ノモノヲ指スモノナルヤモ計リ難キニ付其ノ辺ノ点モ併セテ取調方ヲ希望スル旨告ケタルニ了承セル旨答ヘタル趣ニ有之候委細別紙写ニ就キ御了知相成度此段申進候也

本信写送付先 在上海船津總領事、奉天、天津

(附屬書)

六月十五日附在中国米國公使館ヨリノ覚書写

MEMORANDUM

AMERICAN LEGATION-PEKING

June 15, 1922.

The American Legation has made thorough investigations relative to the report that 45,000 old rifles and 70,000 rounds of ammunition sold by the American Government in Siberia had been sent to Shanghai for General Wu Pei-fu and that some Tientsin merchants might be concerned.

The results of these investigations up to the present not only fail to confirm this report, but clearly tend to indicate that the report is without foundation.

1-It has been impossible to find any one who has

大正十一年六月二十九日

在支那

特命全權公使 小幡 酉吉(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

米國カーチス飛行機ヲ福建官憲ニ売込ニ関スル件

本件ニ関シ当地米國公使ノ注意ヲ喚起シタルニ対シ同公使ヨリ事実調査ノ上何分ノ回答ヲ為スヘキ旨返事アリタル趣ハ六月七日往電第四一二号ヲ以テ及報告置候処今般同公使ヨリ

一、本件ニ関シ其後本国政府ヨリノ通報ニ依レハ福州及其附近地方間ニ商用飛行経営ノ為使用セラルル条件ノ下ニ「カーチス」会社ニ与ヘラレタル商用飛行機輸出ノ許可ハ米國政府ヨリ取消サレタルコト

二、本件取引ニ付テハ米國政府ニ於テ目下慎重考量中ニシテ其結果ハ米國公使ニ通知アルヘキコト

三、米國國務省ハ飛行機及其附屬品ハ支那ニ輸出サルル場合「軍用品」ト見做サルヘキモノナリトノ見解ヲ有シ其旨税関ニ通達済ナルコト

四、米國政府ハ武器禁輸ノ範圍拡張ニ付英國政府ト協議ヲ

開始セルコト伊国力千九百十九年ノ武器禁輸ノ声明ニ於
スル留保ヲ撤回セルニ鑑ミ米國政府ハ華盛頓會議ニ於ケ
ル武器ニ関スル決議ヲ列國力採用スル様提議ヲ為サムト
スルコト及國務省ハ千九百十九年ノ協定ヲ尚有効ト認メ
居ルコト

(註) 等別紙等ノ通り回答有之候委細別紙ニテ御承知相成度此段
及報告候也

本信写送付先 在福州林總領事

註 別紙省略

一八七 七月三日 在本邦米國大使ヨリ
内田外務大臣宛

華府會議ニ於ケル对中国武器禁輸決議ニ関シ
日本政府ノ正式承認方請求ノ件

Tokyo, July 3, 1922.

Excellency:

I am requested by my Government to inform the
Imperial Japanese Government that the Italian Gov-
ernment has, in reply to representations made by the
American Government abandoned its reservations to
the Arms Declaration signed at Peking on May 5, 1919,

and expressed its willingness to approve the resolution
proposed at the Conference on Limitation of Arma-
ments with regard to an embargo on the exporting to
China of arms or munitions of war as amended at the
twenty-eighth meeting of the Committee on Pacific and
Far Eastern Questions held on the 31st day of January,
1922. The resolution as amended is as follows:

“I. The United States of America, Belgium, the
British Empire, France, Italy, Japan, the Netherlands,
and Portugal affirm their intention to refrain from
exporting to China arms or munitions of war, whether
complete or in parts, and to prohibit such exportation
from their territories or territories under their control,
until the establishment of a government whose au-
thority is recognized throughout the whole of China.

“II. Each of the above powers will forthwith
take such additional steps as may be necessary to
make the above restrictions immediately binding.

“III. The scope of this resolution includes all
concessions and settlements in China.

“IV. The United States of America will invite
the adherence to this resolution of the other powers

(右和訳文)

大正十一年七月三日附内田大臣宛在本邦米國大使来翰訳文

以書翰致啓上候陳者今般左ノ通日本帝國政府ニ通報スヘキ
旨本國政府ノ命ニ接シ候

伊國政府ハ米國政府ノ提言ニ応シ一九一九年五月五日北京
ニ於テ調印セラレタル武器ニ関スル宣言ニ對スル留保ヲ抛
棄シ軍備制限會議ニ提議セラレタル支那ニ對スル武器及軍
需品輸出禁止ニ関スル決議(一九二二年一月三十一日第二
十八回太平洋及極東問題委員會ニ於テ訂正ヲ經タル通ノ)
ヲ承認スヘシトノ意ヲ表明セリ

右訂正ヲ經タル決議本文左ノ如シ

一、亜米利加合衆國、白耳義國、英帝國、仏蘭西國、伊太
利國、日本國、和蘭國及葡萄牙國ハ支那全國ニ亘リ權力
ヲ承認セラルル政府ノ確立スル迄完成品タルト部分品タ
ルトヲ問ハス武器及軍需品ヲ支那ニ輸出スルコトヲ差控
ヘ又其領土又ハ其支配下ニアル地域ヨリスル其ノ輸出ヲ
禁止スヘシトノ意思ヲ茲ニ確認ス

二、前記各國ハ速カニ前記ノ制限ヲ直チニ有効ナラシムル
為必要ナル追加的措置ヲ執ルヘシ

in treaty relations with China.”

The Italian Government has also expressed its
willingness that the American Government should un-
dertake to obtain the formal approval of the powers
participating in the Conference on the Limitation of
Armaments at Washington of the resolution as above
set forth.

I am further requested by my Government to ask
the Imperial Japanese Government, in view of its ap-
proval of this resolution announced at the Conference
on the Limitation of Armaments and of the approval
of the Italian Government to give to the American
Government through me its formal approval of the
above resolution.

I avail myself of this opportunity to renew to Your
Excellency the assurance of my highest consideration.

(Signed) Charles B. Warren.

His Excellency

Count Uchida,

His Imperial Japanese Majesty's

Minister for Foreign Affairs,

etc., etc., etc.

三、支那ニ於ケル「コンセンション」及「セットルメント」ハ総テ本決議ノ適用範囲中ニ包含セラル

四、亜米利加合衆国ハ支那ト条約関係ヲ有スル他ノ諸国ニ対シ本決議加入ヲ勧誘スヘシ

尚伊国政府ハ米国政府ニ於テ前記決議ニ対シ華府ニ於ケル軍備制限會議ニ参加セル諸国ノ正式承認ヲ求メラレ度旨ノ希望ヲ申出テタリ

尚本使ハ軍備制限會議ニ於テ日本政府カ右決議ヲ承認セルコト並ニ右伊国政府ノ承認アリタルニ鑑ミ日本帝國政府ニ対シ右決議ニ対スル其ノ正式承認ヲ本使ヲ通シ米國政府ニ与ヘラレムコトヲ求ムヘキ旨本國政府ノ命ニ接シ候此機會ニ於テ本使ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候

敬具

一八八 七月十一日 在奉天赤塚總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

我方ノ間島馬賊討伐申入ニ関連シ張作霖ヨリ

武器供給方申出ノ件

第二九六号

(七月十二日接受)

貴電第一一五号御訓令ノ趣旨嚴重張作霖ニ申入置タル処今

何分ノ儀御電報ヲ請フ

在支公使へ電報セリ

(欄外註記)

「本件責任転化ニ付充分支那ノ責任ヲ明示スルノ要アリ、張ヨリ中央政府ニ具申シ正式ノ手續ヲトラシムベシ」

一八九 七月十四日 内田外務大臣ヨリ
在本邦米國大使宛

对中国武器禁輸決議ヲ正式承認ノ我意向ニ付

回答ノ件

亜一機密第九六号

以書東致啓上候陳者伊國政府ハ米國政府ノ勸説ニ從ヒ一九一九年五月五日北京ニ於テ調印セラレタル武器ニ関スル宣言ニ対スル留保ヲ撤回シ軍備制限會議ニ提議セラレタル支那ニ対スル武器及軍需品輸出禁止ニ関スル決議(一九二二年一月三十一日第二十八回太平洋極東問題委員會ニ於テ訂正ヲ経タル通りノ)ヲ承認スヘシトノ意思ヲ表明セル趣ヲ以テ右決議ニ対シ更メテ帝國政府ノ正式承認ヲ求ムル旨貴國政府ノ訓令ニ基キ七月三日附貴柬ヲ以テ御申越ノ趣閱悉

六 中国への兵器供給ニ関スル件 一八九 一九〇

回張ヨリ左ノ通申出アリタリ

間島馬賊討伐方中央政府ヨリモ自分ニ命令アリタルニ付軍隊ニケ旅ヲ派遣スルコトナリタル処該討伐隊ニ交附スヘキ武器彈藥欠乏セル為甚タ困難中ナリ惟フニ間島地方ニ於ケル馬賊討伐ノ徹底のニ行ハルルト否トハ将来馬賊及不逞鮮人取締並過激派ニ対スル措置ニ関シ重大ナル影響ヲ有スル次第ニシテ特ニ東三省カ貴我特別利害關係ヲ有スル立場ニ鑑ミ

三省治安維持ノ為必要ナル武器彈丸ハ之ヲ貴國政府ヨリ特ニ融通セラレムコトヲ切望ス云々

右張ノ申出ニ付査スルニ我方不偏不党ノ立場ハ今回奉直戰爭ニ際シ絶對的ニ表明セラレタルモ既ニ解決ヲ告ケタル今日特ニ東三省ノ治安維持ノ為内外人民生命財産ノ保護責任ヲ有スル東三省当局者ニ馬賊討伐ノ目的ニ行使スル武器彈藥ヲ融通スルコト事情已ムヲ得サル次第ト思考セラル尤輸入其ノ他ノ關係上ヨリ世間ノ耳目ヲ聳テシメルコトハ不利ナルニ付浦沔方面ヨリ現ニ同地方ニ保管スルモノ若ハ在滿陸軍ノ分ヲ融通スルトセハ殆ト内密裡ニ行ハレ得ヘシト信セラル

致候

帝國政府ハ右米國政府ノ申出ニ欣然賛同シ軍備制限會議ニ参加セル他ノ諸國ニ於テモ同様ノ態度ニ出ツルヲ条件トシテ茲ニ帝國政府ニ於テ右決議ニ正式ノ承認ヲ与フルニ躊躇セサルコトヲ言明致候

尚帝國政府ハ右決議第四項ニ規定セラレタルカ如ク米國政府ニ於テ支那ト条約關係ヲ有スル他ノ諸國ニ対シ右決議ニ加盟方勧誘ノ措置ヲ執ラレムコトヲ切望致候殊ニ独逸國ノ加盟ハ本決議ノ実効ヲ期スル上ニ重大ノ關係アリト思料致候ニ付右ニ付テハ特別ノ御配慮ヲ希望致候

右回答申進旁々本大臣ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候

敬具

註 右對米回答案ノ冒頭余白ニ左ノ記入アリ

「大正十一年七月八日閣議決定(内田大臣印)」

一九〇 七月二十七日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

福州行商業用飛行機ノ輸出ニ関スル米國側釈

明報告ノ件

第五四〇号

(七月二十八日接受)

往電第五三六号ニ関シ

米国公使ヨリ左ノ回答ニ接セリ

米国政府ハ福州ニ於ケル購買者側ノ真正ナル營業目的及其ノ信用等ニ付精密ナル調査ヲ遂ケタル結果「カーチス」会社ニ対シ福州行商業用飛行機ノ輸出ヲ許可シタリ此許可ハ陸海軍航空委員会ヨリ國務省ニ対シ本件飛行機ノ商業用ナルコトノ報告提出アリ且「カーチス」会社ヨリ福州地方ニ於テ商業用ニ使用スルモノニ相違ナキ旨ノ Sworn Statement ヲ徴シタル上発給サレタルモノナリ尚ホ「カーチス」会社ニ対シテハ本件許可ハ之ヲ以テ先例ト為ス能ハス今後飛行機輸出願ハ各件ニ付其ノ事情ト用途トニ依リ考量サルヘキコトヲ申渡サレ居リ從テ米国政府ハ既ニ積出サレタル管ナル本件飛行機ヲ以テ空中商業交通力實際運行セラルニ至ル迄当分他ノ輸出許可証ヲ発行セサル意向ナリ若シ本件飛行機カ軍用ニ使用サルルカ又ハ軍憲ノ手ニ渡ルカ或ハ購買者カ軍憲ノ圧迫ニ依リ自由使用ヲ制限サルル様ノ事アレハ米国政府ハ再ヒ其輸出ヲ許可セサルヘキコト勿論ナリ

在福州領事へ転電セリ

公第四〇三号

(八月十四日接受)

大正十一年八月七日

在支那

特命全權公使 小幡 西吉(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

小倉松太郎抑留銃器積戻方ニ関スル件

小倉松太郎所有銃器ノ件ニ関シテハ天津總領事代理宛貴電第十六号ヲ以テ御回訓ノ次第モ有之今日迄引続キ天津ニ抑留中ニ有之候処其ノ後荷主小倉ヨリ奉直戦争モ片付キタル今日大連ニ移送方許可アリ度旨屢々願出ノ次第有之實際目下同地方ノ時局モ小康ヲ得移送差支無之ト存セラレ候ニ付右移送ニ関スル護照発給方今般別紙写ノ通リ外交部ニ照会致置候尚右護照入手ノ上ハ武器禁輸關係国公使ニ詳細ノ事情ヲ通告シ誤解ノ発生ヲ予防シタル上積出シヲ許可致ス答ニ有之候間左様御承知相成度此段及報告候也

(別紙)

八月七日在中国小幡公使ヨリ沈外交総長代理宛第一三九号公文写

抑留銃器積戻ノ為護照発給方申入ノ件

第一三九号

六 中国への兵器供給ニ関スル件 一九二

一九一 七月二十八日

内田外務大臣ヨリ 在米国佐分利臨時代理大使宛(電報)

对中国武器禁輸ニ関スル華府會議決議ノ我正式承認ニ付通報ノ件

第四二一号

貴電第三四五号ニ関シ

在本邦米国大使ヨリ七月三日附公文ヲ以テ本決議ニ対シ帝國政府ノ正式承認ヲ求ムル旨申出アリタルヲ以テ七月十二日附公文ヲ以テ他ノ會議参列国ニ於テモ同様ノ態度ニ出ツルヲ条件トシテ承認ヲ与フル旨並右決議第四項規定ノ如ク米国政府ニ於テ支那ト条約關係ヲ有スル他ノ諸国ニ対シ右決議ニ加盟方勸誘ノ措置ヲ執ラレ度殊ニ独逸ノ加盟ハ本決議ノ実効ヲ挙クル上ニ重大ノ關係アリト思料スルニ付右ニ付テハ特別ノ配慮ヲ乞フ旨回答シ置ケリ往復文書郵送セリ貴電末段ノ通報アリタシ

一九二 八月七日

在中国小幡公使ヨリ 内田外務大臣宛

小倉松太郎抑留銃器積戻ノ為中国外交部ニ護照発給方申入ニ関シ申報ノ件

以書翰致啓上候陳者本邦商人松本土農夫ハ湖南督軍ノ注文ヲ受ケ大正八年四月十五日汽船洛通丸ヲ以テ三八式旧歩兵銃壹千挺附屬品革具附七十函ヲ大連ヨリ天津ニ輸出シタル処當時恰モ貴国ニ対スル武器禁輸列國協定成立セル為帝國政府ハ右銃器ヲ抑留シ大連汽船会社天津支店倉庫ニ藏入シ天津總領事館ヲシテ之カ監視ニ当ラシメ来リ候荷主ハ其ノ後松本土農夫ヨリ小倉松太郎ニ変シタルモ武器禁輸ノ協定ハ今以テ解ケサル為荷主小倉ハ湖南督軍ヨリハ分文ノ仕払モ受ケス大連汽船会社ニ対シテハ毎月多額ノ倉敷料ヲ負担シ且銃器ハ錆ヲ生シ価格ヲ減スルニ至リタルヲ以テ非常ノ損失ヲ蒙リタル次第ニ有之荷主ニ於テ此ノ上ノ損失ハ到底堪フル処ニ非サルヲ以テ小倉ハ本件荷物ヲ本邦或ハ大連ニ積戻シ処分スル計畫ヲ立テ曩ニ東京外務省ニ積戻許可ノ申請ヲナシ外務省ハ昨年十一月其ノ許可ヲ与ヘ候依テ本年二月小倉ハ積出ノ手続ヲ執ラントセルニ当リ不幸奉直間開戦ノ兆候アリ此ノ際兵器ノ移送ヲ行フハ一般ノ誤解ヲ惹起スルノ虞アリシニ付本使ヨリ本國政府ニ上申シ一時其ノ積出シヲ見合ハサシメ今日ニ至リタル次第ニ有之候然ル処今ヤ奉直戦争モ終了シ時局モ一段落ヲ告クルニ至リ候ニ付荷主

ノ請願ノ誠ニ止ムヲ得サルモノアルヲ認メ本件荷物ヲ大連ニ積戻方実行セシメ度存候就テハ貴国陸軍部護照(護照名義人野村竜次郎)ハ輸入ノ際天津海關ニ納入シタル処輸出ノ為ニハ新ニ護照必要ナル趣ニ付右ノ事情陸軍部ニ御移牒ノ上新ニ三八式歩兵銃壱千挺並ニ附屬品革具附七十函ニ対スル輸出護照発給方御取計相煩度候尚本件銃器ハ輸入ノ当初已ニ古物ニテ其ノ後年所ヲ經今ヤ全ク軍用トシテ用フヘカラス荷主ニ於テハ学校用品トシテ売却シ幾分其ノ損失ヲ償ハント欲スルニ過ギサル趣ニ有之何レニスルモ其ノ売却先等ニ付テハ本邦官憲ニ於テ充分監視可致ニ付右御含置相成度此段照會得貴意候 敬具

大正十一年八月七日

日本帝國特命全權公使 小幡 西吉

支那共和國外交總長代理 沈瑞麟殿

一九三 八月二十四日

内田外務大臣ヨリ
在本邦英國大使宛

对中国武器輸出禁止決議案ニ関シ北京ニ於ケル討議ニ參加方希望スル旨ノ英側申出ニ対シ
回答ノ件

並一機密第一四七号

以書翰致啓上候陳者對支武器軍需品輸出禁止ノ件ニ関シ七月二十四日附貴來第一〇六号ヲ以テ英國政府ニ於テモ日本政府ノ同意セル本件決議案ニ主義上賛成ナルモ尚一層之ヲ明確ニシ且其ノ範圍ヲ擴張スル為メ北京ニ於テ更ニ討議ヲ尽サシムルコト可ナリト思考スルニ付日本政府ヨリモ在支公使ニ訓令シテ右討議ニ參加セシメラレタク斯クシテ在支各國公使ヨリ各自國政府ニ共同稟申ヲ為スニ至ラシメムコトヲ希望スル旨御申越ノ趣敬承致候

然ルニ帝國政府ハ本件ニ関スル米國政府提議ニ對シ七月十四日附在本邦米國大使宛公文ヲ以テ大要帝國政府ハ本件米國政府申出ニ欣然賛同シ軍備制限會議ニ參加セル他ノ諸國ニ於テモ同様ノ態度ニ出ツルヲ條件トシ本決議ニ正式ノ承認ヲ与フルニ躊躇セサル旨並帝國政府ハ本決議第四項ニ規定セラレタルカ如ク米國政府ニ於テ支那ト條約關係ヲ有スル他ノ諸國ニ對シ右決議ニ加盟方勸誘ノ措置ヲ執ラレ度殊ニ独逸國ノ加盟ハ本決議ノ実効ヲ期スル上ニ重大ノ關係アリト思料スルニ付右ニ付テハ特別ノ配意ヲ希望スル旨既ニ回答済ニ有之候右ノ次第ニ付御來示ノ件ハ帝國政府ニ於テ

造機械購買並外人傭聘ニ關スル談話ノ件通牒^(註)

大正十一年九月十八日

參謀本部總務部長 岸本 鹿太郎(印)

外務省亞細亞局長 芳沢 謙吉殿

首題ノ件別紙為參考及送付候也

註 本件末尾余白ニ左ノ如キ記入アリ

「本件ハ別紙赤塚電信ニヨリテモ張ニ於テアキラメ居ルガ如シ從來ノ方針ニ從ヒ陸軍ヘハ直ニ思ヒ止マラシムルコトトシ度シ(重光)」

(別紙)

奉天保安總司令部某要人談話概要

一、「デンマーク」兵器製造機到着予定

予テ購買契約済ナル「デンマーク」兵器製造機械ハ其実独乙「ハンブルク」製品ナルモノノ如ク其種類ハ小銃製造機、大砲製造機、砲彈製造機及機關銃製造機械ノ四種ヨリナリ既ニ發送シタル旨北京駐在同國公使保証シアルヲ以テ今後二ヶ月乃至三ヶ月ノ間ニハ全部奉天ニ到着スル筈ニシテ其価格ハ二百二十萬元ト称スルモ其実百八十萬元ナリ

參謀本部參密第一二二七号第一 (九月十九日接受)

奉天保安總司令部某要人ノ日本以外ノ外國ヨリ兵器製

六 中国への兵器供給に關スル件 一九四

件
附記 中国軍隊現用兵器種類及中国各地方兵器概況一覽表
奉天保安總司令部要人ノ日本以外ノ外國ヨリ
武器製造機械購入等ニ關スル談話概要通牒ノ

一九四 九月十八日

岸本參謀本部總務部長ヨリ
芳沢亞細亞局長宛

モ主義上賛同スル所ニ有之候得共本件ハ先ヅ以テ貴國政府ヨリ米國政府ニ提議セラレ其ノ賛同ヲ求メラルル様致度ク尚帝國政府トシテハ北京ニ於ケル各國代表者會議ニ於テ本件武器輸出禁止決議ノ趣旨ヲ擴張シ曩ニ米國政府ヨリ日英仏伊ノ四國政府ニ提議アリ之等四國政府ニ於テ既ニ賛同ヲ表セル對支海軍擴張援助差止ニ關スル合意ノ趣旨ヲモ一括討議セシムルコトトシ之等ニ關スル關係國間協定案ヲ立案ノ上共同稟申セシメ度意向ニ有之候ニ付貴國政府ニ於テ御同感ナルニ於テハ右趣旨ヲ以テ米國政府其他ニ對シ御提議相成候様致度此段回答申進旁々本大臣ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

曩ニ哈爾濱ニ於テ購買シ輸送シ來レル兵器製造機械ハ當時

誇大ニ報告セラレタルモ其後詳細ナル点検ノ結果ニ依レハ僅ニ被套製造機械ノミニシテ其価格僅ニ一万七千円ニ過キス

三、英、仏人技師傭聘

近々英人技師一名更ニ続テ仏人技師一名ヲ傭聘スル筈ナリ然レトモ此等英仏人ハ言語及文字竝風俗習慣ノ關係上亜細亞人ト共ニ事ヲ為スノ困難ナルハ周ク人ノ知ル所ニシテ仮令傭備スト雖到底實際ノ用ニ立チ得ヘクモ見エス然レトモ之ヲ入レサレハ現在ハ勿論将来日本人ヲ傭聘スルニ際シ種種困難ナル國際問題ヲ惹起シ遂ニ實際業務ニ従事スル日人ヲ採用スル事能ハサルヲ以テ之ニ対スル緩和策トシテ多少高価ナルニ拘ラス一、二外人技師ヲ傭聘スル次第ナリ現ニ露國砲兵將校六名傭聘シアルモ何レモ皆食客ニ過キスシテ何等ノ要務ニ従事セシムル事ナク単ニ居候トシテ消光セシメツアルニ徴スルモ明カナリ

四、兵工廠引込線輕鉄工事開始

瀋陽駅ヨリ兵工廠ニ通スル輕便鐵道ハ目下地均シ工事中ニシテ今後二、三週ノ後ニハ完成スル見込ナリ現下大ニ其工程ヲ急ギツアルモ土地ノ買収其他墓地等ノ移転問題等ア

志ヲ有セサルニ付其旨篤ト諒解セラレ中央部ノ誤解ヲ解カルル様尽力セラレ度云々

(附記)

(一) 中国軍隊現用兵器種類一覽表及 (二) 中国各地方兵器概況一覽表

(一) 支那軍隊現用兵器種類一覽表

(大正十一年九月二十五日陸軍作成)
支那軍要覽附表第五十七

兵器製造種別 別國名	兵器名称及種類	員數	在支武器 百分率 摘要
日本	三十年式步(騎)兵銃 三八式步(騎)兵銃 村田式及日露 青島戰役戰利品	二七四、八二二	三四
獨逸	八八年式「モーゼル」 七・九密歩兵銃 「モーゼル」式 七・九密單發銃 「マントル」 式歩兵銃	一三六、五〇〇	二九
奧國	「マンリヘル」式 八密連發銃 同 騎銃	二五、〇〇〇	三
露國	一八九一年式歩兵銃	三、六五〇	〇・五
伊國	一九一七年式 步(騎)兵銃	一〇、〇〇〇	一・五

リテ人民ト充分ノ諒解ヲ得ル為工事ハ意ノ如ク進捗セサルモ将来日本ヨリ各種ノ機械ヲ購買シ其到着迄ニハ完成シ得可シ、然ル時ハ日本機械ヲ徒ラニ長時日ニ亘リ停車場ニ立往生セシムル事ナク從テ世人ノ疑惑ヲ招ク事少カルヘシト信ス

五、飛行教師傭聘

張作霖ハ在皇姑屯京奉鐵道總查「エルダー」(英人)ノ紹介ニ依リ在天津露國人「マーカンイエ」ナルモノヲ飛行教官トシテ傭聘スルコトトナリ八月二十七日月俸大洋八百元ヲ以テ傭雇契約成立近ク奉天ニ來リ其任ニ當ルヘシ之ヲ要スルニ斯ノ如ク日本以外ノ外國ヨリ兵器製造機械ヲ購買シ又ハ外人ヲ傭聘スルハ全ク變転極マリナキ支那時局ニ応スル為ノ応急準備ト日本カ直ニ我要求ヲ容レサル為万已ムヲ得サル窮策ニ過キスト雖モ吾人ノ最モ希望スル日本ヨリノ調達ヲ容易ナラシムル口実ヲ作ルニモ亦最モ必要アリト信ス、然ルニ日本当局ニ於テハ動モスレハ之ヲ誤解シ之ヲ以テ張作霖ハ日本ニ対シ誠意ヲ有セストカ又ハ外國ヲ担キテ日本ヲ脅威ス等觀察セラレアルヤニ仄聞スルモ我方ニ於テハ絶対ニ斯ノ如キ意圖ナク寸毫モ日本ヲ裏切ルノ意

機 関 銃				火 砲			
計	支那	米國	露國	獨逸	奧國	日本	支那
計	六・八密歩(騎)兵銃 七・九密歩(騎)兵銃 民國三年式 (七・九密)歩兵銃	二五〇、〇〇〇	三二	三八式	「ホツチキス」式 「マキシム」式	「ホツチキス」式 (六・五密口径) 上海製造局製 (七・九密口径)	三一式、三八式 速射野山砲 六式二、一五 珊重砲
日本	八〇七、九七一	一〇〇	四二八	二〇七	一五	一五〇	七四七
獨逸	二〇七	二四	六	三〇	三	一五〇	一〇〇
奧國	一五	二	一	五九六	三〇	七四七	三五
露國	一六	〇・五	七三三	一六	〇・五	七三三	四・五
支那	七三三	四・五	七三三	四・五	七三三	四・五	七三三

計	二、〇九二	一、〇〇〇
---	-------	-------

備考 一、本表ハ在支各武官ノ報告ヲ綜合シ所在稍々確實ナルモノヲ掲ケタルモ各方面ノ報告区々ニシテ到底其ノ真相ヲ捕捉スル能ハス真偽疑ハシキモノハ員數ノ多キモノヲ採用セリ從テ支那各地方兵器概況一覽表ノ數ト一致セス

二、本表以外旧式軍及民間ニ多數ノ制式不明ナル小銃、火砲、機關銃アルモ其ノ大多數ハ損廃シ実用ニ適セス
三、本表ノ兵器中廢銃ニ近キモノ多數ヲ含有スルモ其ノ數量明ナラス

(一) 支那各地方兵器概況一覽表

(大正十一年九月二十五日陸軍作成)
(支那軍要覽附表第五十八ヨリ拔萃)

方面	省 区 別	小銃	機關銃	火 砲
東三省方面	奉 天 吉 林 黑 竜	一一一、三二六	三五八	四三三
北京方面	直 隸 山 西 察 哈爾 綏 遠 熱 河 外 蒙	三三、〇二五	三三七	三九九

一九五 九月三十日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

日本軍青島引揚ニ際シ武器供給ヲ希望スル旨
中国側ヨリ申出ノ件

山会第一四六号 (十月一日接受)

在青島出淵委員ヘ左ノ通電報セリ

九月二十九日王正廷本委員來訪ノ際王ハ山東地方ニ於ケル土匪問題ニ談及シ特ニ日本官憲ノ撤退行政還附前後ニ於ケル地方治安維持ニ関シ頗ル憂慮ニ堪ヘザルモノアル旨ヲ述ベ差当テノ考案トシテハ特別警察隊ヲ組織シ自衛ノ手段ヲ講ズルノ外ナカルベキ処之ガ為最重要ナル問題ハ武器ノ不足是ナリ就テハ日本軍引揚ノ際

(一)軍銃千挺

(二)機關銃六門乃至八門

(三)中口径野砲 (Medium Calibre) 四門

(四)以上ニ相当スル彈藥

ヲ右警察隊ノ為好意ヲ以テ日本側ヨリ供給ヲ受クルコトヲ得バ幸甚ナリ右ニ関シ本委員等ノ好意の考慮ヲ切望スル旨述ベタルヲ以テ本件ニ関シテハ

六 中国への兵器供給ニ関スル件 一九五 一九六

總計	支那方面	中 支 方 面	山東河南陝甘
	福 建 廣 東 廣 西 雲 南	浙 江 安 徽 湖 北 湖 南 四 川 貴 州	山 東 南 西 陝 西 甘 肅
計	九八、三〇〇	六七、五六〇	一三九、七三三
四五九、九四四	二七二	五三三	二九五
一、七八四	二二四	六八一	五一六
二、二四三			

(備考) 本表數字ハ各方面ノ報告ヲ綜合シ所在明ナルモノヲ掲ケタルモノナルモ其ノ報告区々ニシテ真相ヲ捕捉スル能ハス從ツテ支那軍隊現用兵器種類員數一覽表ノ數ト一致セス

第一、支那ニ対スル武器供給差止ニ関スル列国協定トノ關係ヲ考慮スルノ要アルノミナラズ

第二、日本側殊ニ青島守備軍トノ關係モアリ要スルニ偏ニ守備軍側ノ好意ニ訴ヘザルヲ得ザル旨ヲ説示シ其間暗ニ交換問題ヲモ仄カシ結局本委員等ニ於テ一応考慮ヲ加ヘタル上本国政府ニ進言スベキヤ否ヤヲ決スベキ旨答ヘ置キタリ

就テハ右ノ次第由比司令官並秋山委員ニモ御伝達ノ上同官等ノ意嚮ヲ明確メ委細回報アリ度シ尚ホ本官差向ノ思付ニ依レバ本件武器供給ハ青島大學問題ノ如キヲ交換問題ノ一トシテ提言ヲ試ムルモ一策カト思考セラル其辺モ御含ノ上然ル可ク御協議アリ度シ

一九六 十月四日 内田外務大臣ヨリ
在米國佐分利臨時代理大使宛(電報)

北京ニ於ケル「ベスレヘム、コーポレーション」契約ニ関スル討議ニ我方參加方現地ニ訓令濟ノ件

第五四四号
往電第四七七号ニ関シ

在本邦英国大使ヨリ九月二十六日附口上書ヲ以テ八月二十四日附本大臣ヨリ同大使宛書束ニ「レファア」シ「ベスレヘム、コーポレーション」契約ニ関スル米国政府提議カ北京ノ協議ニ参加スヘキ他ノ諸国ニ依リ正式ニ採用セラルルコトニ賛成ナル旨申越セルニ付英国政府ニ於テ北京ニ於テ本件ヲ討議セシムルコトニ関シ各関係国ノ同意ヲ得會議開催ノ運ニ至レル場合ハ在支帝国公使ヲシテ之ニ参加セシムヘク右趣旨ニテ同公使ニ訓令済ノ旨十月四日附ヲ以テ回答シ置ケリ

原文郵送ス

在英大使へ転電シ在欧各大使及在蘭、西各公使へ郵報セシメラレタシ

一九七 十月四日 内田外務大臣ヨリ
在中国小幡公使宛

北京ニ於ケル对中国武器禁輸決議案討議参加

方ニ関スル日英両国間往復文書送付ノ件

附屬書一 九月二十六日附在本邦英国大使館ヨリ日本外務省宛書
ヘスレヘム、コーポレーション契約討議ヲ北京外交団會議ニ採用方申越ノ件

sal made by the United States Government concerning the withholding of aid from China in the matter of naval expansion.

It is presumed that His Excellency is referring to the proposal made by the United States Government to the Governments of Japan, Great Britain, France, and Italy in connection with the Agreement made on the 21st, of Oct. 1911 between the Bethlehem Steel Corporation and the Chinese Government for the construction or improvement of factories for the manufacture of guns and ammunition, for the improvement of existing dockyards and arsenals, and for the construction of naval vessels and guns. If this is the case His Excellency is aware that the proposal made by the United States Government is already in force between the Japanese, French, Italian, United States, and British Governments. But His Majesty's Government agree that its formal adoption by the other parties to the discussions at Peking is desirable.

British Embassy.

Tokyo.

Sept. 26, 1922.

二 十月四日附内田外務大臣ヨリ在本邦英国大使館宛書
ベスレヘム、コーポレーション契約ヲ北京外交団會議ニ於テ討議スルニ異議ナキ旨回答ノ件

亜一機密第一九七号

对支武器供給禁止協定ニ関スル件

本件ニ関シ八月二十四日附亜一機密第一六七号ヲ以テ申進置候次第有之候処其ノ後在本邦英国大使ヨリ九月二十六日附ヲ以テ別紙甲号ヲ通申越ノ次第有之候ニ付右ニ対シ十月四日附ヲ以テ別紙乙号ノ通回答致置候条委曲右ニテ御了悉ノ上本件會議開催ノ節ハ右ニ参加シ從來関係諸国トノ往復書面ニ依リ明カナル帝國政府ノ意図ヲ体シ可然御措置相成度此段申進候也

(附屬書一)

(甲号)

九月二十六日付在本邦英国大使館ヨリ日本外務省宛書
ヘスレヘム、コーポレーション契約討議ヲ北京外交団會議ニ採用方申越ノ件

AIDE-MEMOIRE.

In his Note No. 147 of the 24th of August 1922 H. E. The Minister for Foreign Affairs refers to a propo-

(附屬書二)
(乙号)

十月四日附内田外務大臣ヨリ在本邦英国大使館宛書
ヘスレヘム、コーポレーション契約ヲ北京外交団會議ニ於テ討議スルニ異議ナキ旨回答ノ件

日本外務大臣ハ九月二十六日附英国大使館宛書ヲ閱悉セリ日本外務大臣ハ其ノ八月二十四日附英国大使閣下宛書束中ニ引用セル支那海軍擴張援助差止ニ関スル米国政府提議トハ一九二一年十月二十一日「ベスレヘム、スチール、コーポレーション」ト支那政府トノ間ニ締結セラレタル海軍設備ノ擴張及改良ヲ目的トスル契約ニ関連シ米国政府カ日英仏伊四国政府ニ対シテ為セル提議ヲ指スモノニシテ又右提議カ日英米仏伊ノ諸国間ニ既ニ効力ヲ發生シ居ルコト右覚書ニ指摘セラレタル通ナルコトヲ確認ス而シテ日本政府ハ右提議ガ北京ノ協議ニ参加スヘキ他ノ諸国ニ依リ正式ニ採用セラルルコトニ英国政府ニ於テモ賛成セラルルヲ承知シ欣快ニ堪ヘズ日本政府ハ英国政府カ北京ニ於テ本件ヲ討議セシムルコトニ関シ各関係国政府ノ同意ヲ得ラレタル場合ハ在支日本公使ヲシテ右討議ニ参加セシムヘキハ勿論ニシテ其ノ趣旨ヲ以テ既ニ同公使ニ訓令ヲ發シ置ケリ

一九八 十月五日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

在北京外交団會議ニ於ケル武器抑留問題討議
ノ模様報告並米国公使起草ノ同文電稟案ニ関
シ請訓ノ件

別電 同日在中国小幡公使發内田外務大臣宛電報第六
四一号
右同文電稟案

第六四〇号

(十月五日接受)

往電第六三二号末段武器「エムバーゴ」ニ関シ英國公使
提案(全文郵送)ニ付十月三日外交団會議ニ於テ討議セル
処右提案ハ(一)「エムバーゴ」ノ範圍ヲ華府決議以上
ニ著シク拡張セントスルモノニシテ各自ノ權限外ナル事
(二)此種決議ハ各國悉ク同意スルニ非ザレバ實際ノ効果
ヲ期シ難シ(三)又之ガ勵行ノ手段如何特ニ各國夫々法規
ノ相違ヨリ来タル困難等ノ諸点ニ付議論百出セリ右討議中
仏国公使ハ仏国トシテ之ヲ完全ニ勵行セムトセバ新タニ法
律ノ制定ニ俟タザル可カラズト云ヒ独逸公使ハ決議ニハ参
加ス可キモ武器ノ本国積出シハ充分取締ルトスルモ万一密

the prohibition.

They unanimously agreed, however, to submit to
their respective Governments the following interpreta-
tion note, namely:

“This is understood to include aircraft other than
commercial aircraft and machinery and materials des-
tined exclusively for the manufacture of arms or the
equipment of the arsenals.”

Obata

一九九 十月七日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

武器抑留問題ニ関スル蘭国政府ノ意向ニ関シ
報告ノ件

第六四三号

(十月八日接受)

往電第六四〇号武器「エンバーゴ」ノ件ニ関シ
和蘭公使ハ十月四日附首席公使宛公文ヲ以テ其後華府會議
議事録ニ就キ研究セル処当時該決議ノ字句ニ就テハ相當議
論アリ殊ニ和蘭代表ハ「ハルフォア」氏提案中ニ在リタル
materials exclusively destined for the manufacture of
arms and munition ナル字句ハ同国法規上実施困難ナリ

六 中国への兵器供給ニ関スル件 一九九 二〇〇

輸アリタル場合裁判權無キ在支独逸領事等ハ有効ナル取締
手段無キニ付予メ了解ヲ得置キタシト述べ諸威公使ハ火薬
等ガ果シテ彈藥ニ使用サル可キヤ又ハ工業用タルヤ其取引
ニ際シ一々之ヲ確ムル事困難ナル可ク特ニ硝石等ノ火薬材
料迄モ含マシムルトセバ其範圍ヲ局限スル上ニモムヅカシ
キ点有ル可シト言ヘリ

結局米国公使ノ起草ニテ各自別電第六四一号ノ通同文電稟
ヲ為ス事ニ決定セリ但諸威公使而已ハ同国ガ華府會議ニ参
加シ居ラザルヲ以テ本国政府ノ意向ヲ承知セズトテ其承認
ヲ得ル事ヲ条件トシテ之ニ参加セリ就テハ右同文電稟ニ対
シ至急何分ノ御回訓ヲ請フ

(別電)

十月五日小幡公使發内田外務大臣宛電報第六四一号
米国公使起草ノ同文電稟案

第六四一号

As regards the embargo, the Diplomatic Body
unanimously approved the Washington formula “arms
or munitions of war whether complete or in parts”,
but they could not agree on any modification of that
language for the purpose of extending or strengthening

ト言ケル結果 arms and munition of war complete or
in parts ト修正セラレタル行懸ミ同国政府トシテハ禁
輪ノ目的ヲ強メ又ハ範圍ヲ拡張スル為字句ノ異リタル解釈
又ハ添加ヲ為スコトヲ得ザルモノナルコトニ氣附キタルニ
付米国公使起草ノ同文電稟案ハ自分トシテ發電方困難ナリ
尤モ右ハ各國ヨリ支那ニ向ケ輸出ノ場合ノコトニシテ現ニ
其勵行方ニ就キテハ帝國政府ヨリ各國ニ照会中ナリト承知
スル処自分ノ諒解スルトコロニ抛レバ英國公使今回ノ提案
ハ支那ヘノ武器輸入ヲ差止メ且一九一九年採用セル現在ノ
「エンバーゴ」申合ノ範圍ヲ拡張セムトスルニ在レバ在
支各外人ニ対シ一律之ヲ勵行セラルルニ於テハ和蘭政府
モ共ニ協力スル意嚮ナリト申出デタリ

二〇〇 十月九日 内田外務大臣ヨリ
在米國佐分利臨時代理大使宛(電報)

武器抑留問題ニ関スル在中国小幡公使來電第
六四〇号転電ノ件

第五五〇号

在支公使來電第六四〇号
予テ御通報ノ武器「エムバーゴ」問題ニ関シ最近英國公

使ヨリ本国政府ノ訓令ニ基ク趣ヲ以テ武器「エムバーゴ
ー」ノ範圍ヲ拡張メ武器機械技術者飛行機及其ノ操縦者等ヲ
含マシムルコト必要ナルヘク右ニ付關係国公使ニ於テ協議
シタシト申出テ右ニ付十月三日外交団會議ニ於テ討議セル
処右提言ハ(一)「エムバーゴ」ノ範圍ヲ華府決議以上
ニ著シク拡張セントスルモノニシテ各自ノ權限外ナル事
(二)此種決議ハ各国悉ク同意スルニ非ザレバ實際ノ効果
ヲ期シ難シ(三)又之ガ勵行ノ手段如何特ニ各国夫々法規
ノ相違ヨリ来タル困難等ノ諸点ニ付議論百出セリ右討議中
仏国公使ハ仏国トシテ之ヲ完全ニ勵行セムトセバ新タニ法
律ノ制定ニ俟タザル可カラズト云ヒ独逸公使ハ決議ニハ参
加ス可キモ武器ノ本国積出シハ充分取締ルトスルモ万一密
輸アリタル場合裁判權無キ在支独逸領事等ハ有効ナル取締
手段無キニ付予メ了解ヲ得置キタシト述べ諸威公使ハ火薬
等ガ果シテ彈藥ニ使用サル可キヤ又ハ工業用タルヤ其取引
ニ際シ一々之ヲ確ムル事困難ナル可ク特ニ硝石等ノ火薬材
料迄モ含マシムルトセバ其範圍ヲ局限スル上ニモムヅカシ
キ点有ル可シト言ヘリ

結局米国公使ノ起草ニテ各自別電第六四一号ノ通同文電稟

二〇二 十月十二日

内田外務大臣ヨリ
在中国小幡公使宛(電報)

武器抑留問題同文電稟ニ関シ回訓並ベスレヘ
ム、コーポレーション契約問題討議ノ有無ニ
關スル件

第五一八号

貴電第六四〇号及第六四一号ニ関シ

同文電稟ニ對シテハ我方ニ異存ナシ尚ホ八月二十四日附亜
一機密第一六七号往信附屬乙号ノ通我方ニ於テハ本件貴地
ニテ討議ノ際過般「ベスレヘム、スチール、コーポレーシ
ョン」契約ニ関シ成立セル合意ノ趣旨ヲモ一括討議セシメ
(右ニ對シテハ英國政府モ同意ヲ表シ来レリ十月四日附亞
一機密第一九七号往信参照)度キ意向ナリシ処右ノ問題ニ
付テハ三日ノ外交団會議ニ於テハ何等討議ヲ見サリシ次第
ナリヤ若シ然ラザリシ場合ニハ今後適當ノ機會ニ貴官ヨリ
提議方取計ハレタシ為念

二〇三 十月二十日

在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

武器抑留問題同文電稟ニ關スル件

六 中国ヘノ兵器供給ニ關スル件 二〇一 二〇三 二〇四

ヲ為ス事ニ決定セリ但諸威公使而已ハ同国ガ華府會議ニ参
加シ居ラザルヲ以テ本国政府ノ意向ヲ承知セズトテ其承認
ヲ得ル事ヲ条件トシテ之ニ参加セリ就テハ右同文電稟ニ對
シ至急何分ノ御回訓ヲ請フ

別電ト共ニ在英大使ニ轉電シ在歐各大使及公使ヘ轉電セシ
メラレ度シ

二〇一 十月十二日

内田外務大臣ヨリ
在米國佐分利臨時代理大使宛(電報)

武器抑留問題同文電稟ニ關シ任国政府ニ申入
方指示ノ件

第五五八号

往電第五五〇号ニ関シ

別電第五五九号ノ通在支公使ニ訓令セルニ付貴官ハ任国政
府ニ對シ同政府ヨリモ右趣旨ニテ在支公使ニ訓令ヲ發スル
様御交渉アリ度シ別電ト共ニ本大臣訓令トシテ在英大使ヘ
轉電シ在歐各大使ヘ轉電セシメラレ度シ

註 別電第五五九号ハ前掲同日内田外務大臣宛在中國小幡公使
宛電報第五一八号ト同文ナルニ付省略ス

第六一一号

(十月二十一日接受)

在米代理大使宛貴電第五五八号ニ関シ往電第六一〇号徳川
極東部長ニ面会ノ節御來訓ノ次第ヲ語リ後ヨリ公文ニテ申
入ルヘキ旨申添ヘタル処同部長ハ英國政府ハ本件共同電稟
ヲ承認スルニ同感ナルガ在米代理大使宛貴電第五五九号後
段同様ノ疑問ニ就キ在支代理公使宛問合セヲ發シ置キタリ
トノコトナリシニ付徳川ハ右貴電後段在支公使宛御電訓ノ
次第ヲ語リタルニ同部長ハ帝國政府申入ニ就キ早速電訓ヲ
發スルコトニ取計フヘント答ヘタル趣ナリ前記公文發送
済

二〇四 十月二十日

在中國小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

日本軍青島引揚後ノ不要武器供給ニ關シ中国
側ヨリ再度要望ノ件

山会第一六九号

(十月二十一日接受)

貴電山会第六三三号ニ関シ王正廷過般青島出張中武器問題ニ
付引田參謀長ト内談ヲ遂ケタル際同參謀長ハ軍側トシテハ
別ニ異存ナク陸軍省ト外務省ト右協議整フニ於テハ守備軍
引揚ノ際不要武器ヲ殘留スルコトニ取計フヘントノ由比司

令官ノ意向ヲ伝ヘタル趣ノ所其後本件ニ関シ支那側ヨリ再ヒ熱心ナル申出アリ現ニ十七日木村ト密トノ会谈ノ際ニハ外交団ノ諒解ニ付テハ日本側ノ外尚王正廷自身ニ於テモ之ヲ得ルニ努ムベク而シテ右譲受クヘキ武器ハ青島ニ於ケル保衛ノ用途ニ供スルニ止メ青島以外ニハ断シテ之ヲ移転セストノ保障ヲ与フルニ躊躇セスト言明シタル趣ニテ尚今般不用武器ノ数量ヲ變更シ改メテ歩兵銃一千挺騎兵銃一百挺(騎兵刀一百振トモ)「ピストル」三百挺「モーゼル」砲一百門、中口径山砲四門、機関銃八台並彈藥希望ノ旨申出アリ右数量ノ如キハ御意向次第第二ヨリ守備軍側ト篤ト協議セシメ治安維持ニ必要ナル限度ニ止ムル様措置シ可然ト存セラル叙上ノ如ク本件ニ関スル支那側ノ希望切ナルモノアリ且貴電御来示ノ三条件ニ具備スルコト困難ナラスト思料セラルルニ付テハ此際支那側ノ希望ニ応シ我寛容ナル襟度ヲ示シ置クコト大局上ニモ利益渺カラザルヘント思料セララルニ付テハ一応陸軍省側ト御話合ノ上決定御回訓ヲ得タク尚本問題ニ関シ交換条件又ハ最後ノ諾否本官ノ裁量ニ御一任相成ル様致シタク何分ノ義至急御電示ヲ請フ

人五名ハ大阪ニテ逮捕セラレタル趣ナルガ本件ハ時節柄注意ヲ要スル次第ニ付今日迄青島經由武器密輸入ノ有無取調方可然御措置相成結果回電アリ度

二〇七 十月二十二日 在米國佐分利臨時代理大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

武器抑留問題共同電票ニ関シ米國側ニ我方希望ヲ申入レタル件

第六八四号 (十月二十三日接受)

貴電第五五八号ニ関シ

十月二十一日極東部長ニ面会シ帝國政府ノ希望ヲ申入レタル処同部長ハ共同電票ハ飛行機ノ軍用、商業用ヲ區別シ居ルモ飛行機ノ関スル限り之ガ區別ハ實際困難ナルノミナラズ飛行機ノ対支輸入ニ付テハ英、米間ニ二三年前ニ「ピッカース」社ノ輸入ニ関聯シ問題トナリタルコトアリ特ニ最近英國ヨリ六十台支那ニ輸入セラレタル旨ノ聞込アリ当國政府トシテハ当業者ニ対スル説明ノ都合モアルニ付目下在支公使ニ対シ右英國輸入ノ事實取調ヲ命ジ且共同電票ニハ關係國公使全部賛成シ居ル次第ナリヤ否ヤ問合セ中ニテ右ニ関スル回答接受次第國務長官ノ裁決ヲ仰グ運トナリ居ル

二〇五 十月二十一日 内田外務大臣ヨリ
領事及在厦門藤井領事各宛(電報)
福州方面へノ武器密輸事實ノ有無内查方訓令ノ件

合第三二九号

広東總領事發台灣總督宛第二七号ニ関シ武器密輸入ノ事実ノ有無内查ノ上回電アリ度尚輸入禁遏ニ関シ税関側ト充分了解ヲ遂ケ置カレ度シ

二〇六 十月二十一日 内田外務大臣ヨリ
在中国小幡公使宛(電報)

本邦ヨリ青島經由武器密輸ノ有無ニ付取調方訓令ノ件

第五二九号

最近新聞紙報ニ依レハ大阪ヨリ武器密輸出ヲ企テタル為同地地方裁判所検事局ニ於テ審理ヲ受ケタル青島輕藻町野中浜治ノ陳述ニ依リ青島邦人数名ト約二百人ノ内地人トノ間ニ多数ノ武器彈藥ヲ青島經由密輸入シ張作霖馬賊又ハ露國過激派ニ売込ム計画アルコト判明シ右ニ関連シテ青島貿易商山本代太郎ノ依頼ヲ受ケ多数ノ武器買ヒ集メ中ナリシ邦

次第ナリト述ベタリ尚右談話ノ後極東部長ハ全然私ノ話トシ他ノ關係國ニテ同意ナルニ於テハ米國政府モ結局共同電票ヲ承認スルニ至ルベシト思考スト謂ヘリ
英ヲ経テ在欧各大使ヘ転電セリ

二〇八 十月二十五日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

本邦ヨリ青島經由武器密輸ノ有無ニ関シ回報ノ件

第六六三号 (十月二十五日接受)

貴電第五二九号ニ関シ青島(不明)取調中ナルカ出淵参事官カ青島大滝税関長ヨリ聞込ミタル所ニ依レハ憲兵隊ノ証明券ニテ輸入セラレタル拳銃昨年ハ二百五十挺本年一月ヨリ八月迄千八百十一挺ニ上レル由(此ノ數ハ同税関長ヨリ「アグレン」ニ報告シアラサル由)ナリ尚同税関長ノ談話ニ依レハ近來拳銃及鉄砲ノ密輸入頗ル多ク中ニハ味噌樽ヨリ発見セラレタルモノアリ斯ク輸入カ多数ニ上レルハ此ノ種武器カ原価ノ三倍ニモ売レル為支那人ニ讓渡ヲ目的ニテ輸入ヲ企ツルニ原因スヘシトノコトナリ御参考迄
(欄外註記)

「本件ハ更ニ嚴重取締方各関係官憲ノ注意喚起ノ要アルヘシ」

二〇九 十月二十五日

在奉天赤塚総領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

本邦人ニ依ル浦潮所在武器ノ奉天中国軍向売

込事情査報ノ件

第四一七号

(十月二十五日接受)

貴電第一七三号ニ関シ

徳久愛馬ニ就キ取調ベタル処次ノ通り

中原八郎ハ浦汐ニ於ケル我軍憲ノ諒解ヲ得タリト称シ当地居住宮内^{ミヤウチケンノウ}ト共同シ同地ニアル武器ヲ大連銃砲火薬商

「ジャーセン」ノ手ヲ経テ売込ミ方ヲ依頼シ居リタル処抄シカラザルヲ以テ中原、宮内兩人ハ更ニ「ジャーセン」

ノ所ニテ当地電気機械商今西^{イマニシ}次郎ノ仲介ニ依リテ徳久ヘ売込契約ノ相談纏リ徳久ハ更ニ今西ノ斡旋ニ依リ当地米商

商^{シヤウシヤウ}洋行「アンダーソン、メヤー」經理支那人ヲ経テ次ノ如ク当地軍械局ニ之ガ売込ヲ為スコトナレリ

引渡場所ハ連山灣ニ於テ本船ニ積込ヲ了シ出帆ト同時ニ代金ヲ交付スルコトニ協定シタル処海上ニ於ケル危険負担ニ

ヒ何等尽力方拒絶シタリ

尚ホ当地税関長二十五日小官ヲ来訪シ其談話ニ抛レバ本件ニ関シ念ノ為総稅務司ノ訓令ヲ仰ギタル処荷受人ニ於テ日本領事ヲ經テ海關監督ヲ通ジ北京陸軍部發給ノ護照ヲ得テ之ヲ提出スルニアラザレバ輸入ヲ許可スベカラズトノ回訓ニ接シタル趣ナリ

此外大信洋行モ同地兵工廠ノ注文ニ応ジ前記同様ノ手續ニ依リ彈丸用原料品ノ輸入ヲ企テ既ニ当地ニ到着セル白鉛(「スペルタ」)約十一万五千斤及二、三日中ニ到着ノ予定ナル智利硝石十萬斤アリ、此等輸入禁制品ノ通関ニ就テハ奉天兵工廠ノ吏員当地ニ出張シ来リ支那官憲ト協力税関ニ交渉中ニシテ同二十六日朝税関長ト会见スル筈ナルモ税関長ハ陸軍部ノ護照アルニアラザレバ輸入許可セザルベシ大信洋行ヨリハ未ダ何等援助方願出ナキモ若シ護照下附方等願ヒ出デタル場合ニハ小官ハ東亞商会同様之ヲ拒絶スル考ナリ

右御参考迄報告ス

奉天ニ電報セリ

関シ徳久對軍械局間ニ意見ノ一致ヲ欠キ該契約ハ不調ニ歸スルニ至リ從テ徳久等ノ手ニ依ル該武器輸送ハ実現スルニ至ラズ

尚又此間当地我軍憲ガ本件ニ何等關係セシ事實無シトノ事ナリ尚本件ノ内情並ニ其後ノ成行ハ目下東京市外宮仲居住中原ニ就キテ御取調アラバ詳細判明スベシ云々

貴電末段柳田某關係事件ハ引続キ取調中ナルモ右不取敢電報ス

二一〇 十月二十五日

在牛莊清水領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

硫黃白鉛智利硝石等輸入禁制品ノ簡易通関方

業者申出ヲ拒否ノ件

第五三号

(十月二十六日接受)

奉天東亞商会ナルモノ同地兵工廠ノ注文ニ応ジ本月十一日入港本邦汽船ニテ大阪ヨリ硫黃三十屯ヲ当地ニ輸入シ奉天保安總司令部發給ノ護照ニ依リ通関セントシタル処税関ニ於テハ該護照ヲ認メザルニヨリ右硫黃ノ通関方ニ関シ荷受人ヨリ小官ノ援助ヲ求メタリ、小官ハ本件硫黃ハ火薬ノ原料ニ使用スルモノナル事明ナルニ付予テ御訓令ノ趣旨ニ從

二一一 十月二十六日

中山關東庁警務局長ヨリ
壇原外務次官宛

露国人ニ依ル武器輸入禁止ニ関スル東三省保

安總司令ノ通令報告ノ件

關機高収第一五一七八号ノ一

(十一月一日接受)

大正十一年十月二十六日

中山關東庁警務局長(印)

壇原外務次官殿

(元田拓殖局長長殿)

武器輸入ニ関スル保安總司令通令

東三省保安總司令ハ十月二十一日軍政各機關ニ對シ武器輸入ニ関スル左記ノ通令ヲ發シタリ

通 令 文

東三省ハ露領ニ隣接スル為メ從來露國党派ニ對シテ嚴正中立ヲ守リ凡ソ我國境ヲ通過スルモノ及我カ領土ニ居住スル露國人並ニ新旧党派ヲ問ハス一律ニ之ヲ保護シ唯タ露國人民ニシテ我領土内ニ於テ政事ニ涉及スル行為ハ之ヲ許ササルコトニ從來ヨリ取扱ヒツツアリ然ルニ露國ニ在リテハ今尚党争息マス為ニ我領土内ニ往来又ハ居住スル露國人日々

増加シ殊ニ目下日本軍ノ撤退時期ニ在ルヲ以テ種々ノ謠言起リ治安妨害スルアリテ不慮事件發生ノ虞アリ依リテ茲ニ從來ノ弁法ヲ更ニ増訂シテ申明スルニ付今後ハ何種ノ党派又ハ軍隊及商民ヲ問ハス總テ武装又ハ武器ヲ携帯シ或ハ密帶シテ入境シ危險物品ヲ我カ領土内ニ輸入スルコトヲ得ス但シ商業ノ為メ又ハ単ニ我領土ヲ通過スルモノニ對シテハ護照ヲ受ケ入境ノ時ニ海關及駐在ノ交渉分局又ハ特ニ設置シアル検査機關ニ護照ヲ出シテ検査ヲ經テ入境ヲ許可セラシルモノトス以上ノ弁法ハ边防ヲ慎重ニシ紛擾ヲ予防スル目的ナルヲ以テ若シ露國兵士等ニシテ武装ノ儘我領土ニ闖入又ハ通過スルモノ並ニ我領土ニ銃、銃彈及危險物品ヲ私運スル露國人ニシテ之ヲ隱匿シテ官ニ報告セサル等ノ者アルコト發覺シタル時ハ直チニ其物品ヲ沒收シタル上其露國人ハ実情ヲ調査シタル上之ヲ処分シ若シ護照ヲ受ケ居ラサル者アル時ハ之レニ對シテ一切入境ヲ禁スルコトトスヘシ本通令ハ各處ニ布告ヲ行ヒタル外更ニ各機關ニ咨令スルモノナルニ付キ右ニ依リ弁理スルコトニスヘシ

二二二 十月二十六日 中山閣東庁警務局長ヨリ
埴原外務次官宛

ルモ近ク輸送開始スルヤノ如ク果シテ事実ナルヤ否ヤニ関シテハ引続キ内偵中

二二三 十月二十七日 在牛莊清水領事ヨリ
内田外務大臣宛 (電報)

本邦人所有保税倉庫ヨリ輸入禁制品強制持出
ノ動キニ関シ警告ノ件

第五六号 (十月二十八日接受)

往電第五四号ニ関シ

当地道尹二十七日朝小官ヲ來訪シ本件ニ関シ奉天ヨリ招電ニ接シタルヲ以テ出奉前予メ之ニ對スル小官ノ態度ヲ承知致シタシト申出タルニ付小官ハ帝國政府ヨリ支那ノ内乱ヲ助成ス可キ如何ナル行動ニモ関与スル事ヲ嚴禁サレ居ルニ依リ本件物品ハ奉天ト北京政府ト交渉ノ結果当地税関ノ許可アルニ非ザレバ日本人ノ倉庫 (税関特許ノ下ニ在ル個人保税倉庫ナリ) ヨリ持出ス事ニ同意シ難シト述べ置キタリ (硫黄ハ日本人倉庫ニ白鉛ハ英人ノ倉庫ニ何レモ荷揚シ居レリ)、道尹ハ二十七日午後四時ノ汽車ニテ奉天ニ向ヘリ同日夕刻支那側ニ於テ税関ノ許可無ク警察力ヲ用ヒ強制的ニ倉庫ヨリ持出サントスル風説有リタルニ付我方ニ於テハ

張作霖及英人間ニ兵器売買契約成立セリトノ
聞込ニ関シ報告ノ件

開機高収第一五一七九号ノ一 (十一月一日接受)
大正十一年十月二十六日

中山閣東庁警務局長 (印)

埴原外務次官殿

(元田拓殖局長殿)

張作霖兵器買入契約

張作霖ノ兵器購入ニ汲々タルハ世ノ喧伝セル処ナルカ仄聞スルニ本年九月三十日頃英人 (氏名不詳) ハ奉天春日町本庄波衛ヲ訪ヒ三八式歩兵銃五万挺ヲ張作霖ニ売却シ度ニ依リ支那側ニ對シ紹介方ヲ依頼シ來リタルニ本庄波衛ハ其兵器ノ出所判明セサレハ売込ノ斡旋スルコト不能トノ事由ノ下ニ拒絕シタリト、然ルニ探聞スル処ニ依レハ數日前該英人某ト張作霖トノ間ニ於テ銃一挺九十円 (一挺ニ付彈丸一千發) ニテ契約成立シタリトノ趣ニシテ該銃ハ目下香港ニアリ其ノ所有主ハ英國人ニシテ神戸天津上海香港等ヲ根拠トシテ頻リニ銃器密売スル社会主義者タル「ジョールデソ」ト称スルモノノ如ク其ノ輸送経路ニ付キテハ熟考中ナ

早速警察官ヲシテ關係倉庫ヲ警戒セシムルト同時ニ即刻道尹代理ヲ訪問シ該物品ハ税関ノ許可ヲ得テ取出サルルニ於テハ何等異存無キモ右倉庫ハ日本人ノ所有ナル以上税関ノ手續ヲ經ズシテ倉庫ニ侵入在庫品ヲ持出スガ如キハ小官ノ絶對ニ承認シ得ザル処ナル而已ナラズ当地多數貴方本件關係者中ニハ或ハ道尹ノ真意ヲ知ラズシテ暴力ヲ用ヒ取出サムト企ツル者アルヤモ知レザルニ付小官ニ於テハ万一ニ処スル為警察官ヲ派シ警戒セシメ居レルニ付若シ暴力ニ依リ取出サムトスル者アル時ハ兩者間ニ衝突ヲ來シ重大事件ヲ惹起ス虞アルニ付斯ル行動ニ出デザル様念ノ為關係官憲ニ對シ充分注意セラレ度シト嚴重警告シタル処道尹代理ハ道尹ノ申附ニ依リ二十八日午前中奉天兵工廠ノ特派員ヲシテ本件物品ヲ引渡サル様日本領事ニ依頼セシムル事ト成リ居タリト語り且小官警告ノ次第ハ早速奉天ニ電報ス可シト申居リタリ
惟フニ差掛リ暴力ニ依リ取出スガ如キ事無カル可キモ為念警察官ヲシテ警戒セシムル事トセリ尚本件ハ英國領事ニモ關係アルガ故ニ同領事ニ注意シタル処同領事ハ警察ヲ有セザルニ付倉庫所有者ニ注意警戒セシメ居レリ

北京、奉天ニ電報シ安東ニ往電第五四号ト共に転電セリ

二二四 十月二十八日 在牛莊清水領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

東亜商会及大信洋行取扱輸入禁制品ハ積出港
へ送還スル様關係者ニ説示方赤塚總領事ニ依
頼シタル件

第五七号 (十月二十八日接受)

本官発奉天宛電報第三八号

往電第三七号ニ関シ

東亜商会引受ノ硫黄ハ三井取扱ノ汽船ニテ輸入シ大信洋行
輸入ノ白鉛ハ郵船会社汽船ニテ輸送シ来レルモノナルガ奉
天政府ニ於テハ此等物品ノ入手ヲ熱望セルニ付若シ本件物
品ガ永ク当地保税倉庫ニ保管セラルル時ハ必ズヤ面倒ヲ惹
起スベキ虞アル処当地終航期モ僅ニ十七八日ヲ剩スノミナ
ルニ付奉天政府ニ於テ許可ヲ得能ハザルニ於テハ此ノ際至
急輸出地へ向ケ送還ノ必要アリ右ニ関シ税関長ノ意嚮ヲ確
メタル処小官同様ノ意見ニテ次便ニテ輸出港へ積戻方ヲ命
ズベシト語リ直ニ其旨各關係者ニ通告セリ、尚三井取扱船
ハ十一月十日出帆ノ「チヨウジュン」丸、郵船会社ハ十一

月十五日ノ相模丸ヲ以テ孰レモ終航トスル予定ニ付右終航
迄ニ必ズ積戻シノ手配ヲ為ス様本官ヨリ在当地關係者ニ夫
々説諭中ナリ就テハ貴地關係者ニ対シテモ貴官ヨリ同様説
諭方相煩度シ

大臣及北京安東へ転電セリ

二二五 十月二十八日 在牛莊清水領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

東亜商会及大信洋行取扱輸入禁制品ノ牛莊輸
入ニ至レル経緯報告ノ件

第五八号 (十月二十九日接受)

往電第五七号ニ関シ

本件ハ今後ノ發展ノ模様ニ依リテハ排日宣伝ノ材料ニ利用
セラルコトナキヤモ測リ難キニ付本件物品輸入ニ至レル
経緯左ニ電報ス、奉直開戦後奉天ト北京政府トノ關係断絶
シ硫黄、硝石、白鉛以下禁制品ヲ輸入スルニ当リ正規ノ手
続ヲ履ム能ハザルコトナリ為ニ工業用ノモノヲモ輸入ス
ル能ハズ工業者ノ蒙ムル打撃少カラザルニ付当地税関長ハ
總稅務司ニ請訓ノ結果一時的便法トシテ工業用ノモノハ奉
天政府発給ノ護照ニ依リ税関長ノ裁量ニテ輸入ヲ許可シ得

ルコトナリ軍用ノモノハ依然北京陸軍部ノ許可ヲ要シ

輸入者ガ外国人ノ場合ハ其ノ所属國領事ヨリ公使ヲ經テ陸
軍部ニ交渉シ護照ヲ得ルコトナリ居レルモノナル(往電
第五四号税関長ノ談話中領事ヨリ海關監督ヲ通ジ陸軍部ヨ
リ許可ヲ得ルコトアリシハ誤リ) 処今回ノ問題トナレル
硫黄白鉛中磺黄ノ輸入關係者ハ奉天兵工廠ヨリ注文ニ接ス
ルヤ奉天兵工廠ニ対シ其ノ護照ニテ通關シ得ルヤヲ確メタ
ル処右ニテ差支ナシト云ヒ聞カサレタルモ為念日本文ニテ
右護照ヲ封入シ当地税関ニ照会シタル処当地税関在勤ノ日
本人幫辦其ノ上級幫辦ノ意見ヲ聞キ差支ナキ旨日本文ニテ
回答セリ右ニ関シテハ該日本人幫辦モ承認スル所ナリ

他方当地道尹ノ小官ニ語ル処ニ依レバ約一ヶ月前奉天ヨリ
近々硫黄、硝石、白鉛、銅等ヲ營口經由ニテ輸入スルコト
トナリ居ルニ付通關方税関長ニ交渉スベキ旨訓令ニ接シタ
ルヨリ直ニ税関長ニ書面ヲ以テ交渉シタル処税関長ヨリハ
奉天政府輸入ノ物品ハ軍用品ト思ハルモ工業用品トシテ
通關方取扱フコトトスベク尚為念北京ニ請訓シ確答スベキ
旨ヲ答ヘ次デ北京ヨリ回訓ニ接シタル趣ニテ工業用トシテ
通關セシムベキ旨回答シ来リタルニ付道尹ハ右書面ノ写ヲ

添ヘ其旨奉天ニ報告セリ

前述ノ次第ナルヲ以テ奉天支那側ニ於テハ關係輸入品ハ何
等支障無ク通關シ得ルモノト信ジ護照ノ記載振リ等ニ何等
注意スルコト無ク兵工廠用ト記載シタルヨリ特ニ税関ノ注
意ヲ惹ク原因ヲ為シタルモノナリ一方郵船会社側ニ於テハ
普通輸入地ノ支店又ハ代理店ヨリ輸入者ガ支那政府ノ正當
許可書ヲ所持セル事ノ通知ニ接シタル上ニ非ザレバ貨物ヲ
引受ケザルコトセル処郵船会社当地代理店ニ於テハ約一
ヶ月前ニモ今回同様ノ護照ニテ銅及白鉛ノ輸入ヲ許可サレ
タルコトアルニ顧ミ差支無キモノト信ジ其旨ヲ大阪支店ニ
電報セルモノナリ然ル処当地税関ニ於テハ最近公報作製ニ
際シ軍用品ノ輸入意外ニ多額ナルニ驚キ取調ノ結果税関ノ
手落ちナリシコトヲ発見シ急ニ通關ヲ嚴重ニセルモノト察
セラレ今回ノ事件ハ全ク当地税関ノ禁制品輸入規則ヲ誤解
セシニ基クモノト認メラル

北京、奉天ニ電報シ安東ニ暗送セリ

二二六 十月三十日 在牛莊清水領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

東亜商会及大信洋行取扱輸入禁制品ノ大連陸

揚差止方関東長官ニ依頼シタル件

別電 同日在牛莊清水領事宛内田外務大臣宛電報第六

〇号

東亜商会及大信洋行取扱輸入禁制品ノ大連陸揚差止方関東長官ニ依頼ノ件

第五九号

(十月三十一日接受)

往電第五四号報告中ノ大信洋行輸入ノ硝石十万斤二十八日入港ノ第十六宇和島丸ニテ当地ニ到着セリ、税関長ハ北京陸軍部ノ許可ナキヲ理由トシテ其ノ陸揚ヲ許サザル処第十六宇和島丸ハ之ヨリ南支方面ニ航海スルモノナルニ付右硝石ヲ大連ニ陸揚セントシ、当地税関ニ於テ大連仕向ノ手續ヲ終ヘ三十一日朝当地ヲ出航スルコトナレリ、然ル処本件物品ハ当地ニテ相当内外人ノ注意ヲ惹キ居ルニ付若シ大連ニ於テ陸揚ヲ許可セラルトキハ時節柄問題ヲ引起ス虞アルニ付其ノ陸揚差止メ方ニ関シ関東長官ニ対シ別電第六〇号ノ通り電報セリ

(別電)

十月三十日在牛莊清水領事宛内田外務大臣宛電報第六〇号
東亜商会及大信洋行取扱輸入禁制品ノ大連陸揚差止方関東長官ニ依頼ノ件

終ヘ三十一日朝出帆ノ予定ナリ本件ハ当地ニテ相当内外人ノ注目ヲ引キ居リ若シ大連ニ於テ陸揚ヲ許可スル時ハ時節柄問題ヲ引起ス虞アルニ付大連税関ト御交渉ノ上陸揚セシメザル様致シ度シ
(往電第五九号及本電北京奉天ニ転電シ安東へ郵送セリ)

二一七 十一月三日

在白国武者小路代理大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

武器抑留問題同文電票ニ関スル白国政府ノ意

向報告ノ件

第二二七号

在米代理大使宛電第五五八号ニ関シ

十一月三日白国外務次官代理及東洋局長ニ面会シ御来訓ノ次第ヲ申入レタル処

一、外務次官ハ白国政府モ共同電票ノ趣旨ニハ異存ナシ但密輸入等ニ対スル完全ナル取締方法無キ今日其ノ実行ニ疑ヒ有リ將又他国ノ態度ヲ知ルノ要有リ尚考究中ナリト述べ二、東洋局長ハ十月十日外務大臣ハ在支白国公使ニ一応右ニ付左ノ電訓ヲ発セリトテ其ノ字句ヲ読上ゲタルガ要スルニ

第六〇号

奉天東亜商会ガ同地兵工廠ノ注文ニ応ジ本月十一日大阪ヨリ当地ニ輸入セル硫黄三十屯竝奉天大信洋行ガ前同様兵工廠ノ注文ニ依リ本月二十五日本邦ヨリ当地ニ輸入セル白鉛十一万五千斤ハ孰レモ奉天保安総司令部発給ノ護照ニ依リ輸入セントシタル処当地税関長ハ輸入者ガ日本人ナルガ故ニ日本領事ニ願出デ陸軍部ノ護照ヲ得テ之レヲ提出スルニ非ザレバ許可スル能ハズト述べ輸入ヲ拒絶シタルニ依リ関係者ヨリ小官ノ援助ヲ求メ来リタル処小官ハ帝國政府ヨリ支那ノ内争ヲ助勢スベキ如何ナル行動ニモ干与スルヲ嚴禁サレ居ルヲ理由トシテ之ガ助力方拒絶シタリ税関デハ北京陸軍部ノ許可ヲ得ザルニ於テハ最近ノ便ニテ関係貨物ヲ輸出地ニ積ミ戻スベキ旨関係船会社ニ通知シタリ小官ハ之ガ積戻シ方ニ付関係者ニ対シ説論中ナリ然ル処大信洋行ガ前記商品ト共ニ兵工廠ヨリ引受ケタル注文ノ一部ナル硝石十万斤第十六宇和島丸ニテ本月二十八日当地ニ到着セリ当地税関ニ於テハ前同様ノ理由ニ依リ陸揚ヲ許可セザル処同船ハ当地ヨリ南支那ニ航海スルモノナルニ付船主側ニ於テハ本品ヲ大連ニ陸揚セントシ当地税関ニテ大連仕向ノ手續ヲ

イ、右解釈ヲ与フル事白国側ニ取り何等特別ノ利益無シロ、露支国境ノ無取締リ又ハ各国船舶乗組員ノ密輸等ノ為輸入禁止ノ実ハ拳グル事難シ

ハ、其他諸般ノ実情ニ照シ暫ク形勢ヲ觀望ス可キ事ノ意味ナリ

依テ本官ハ再応御来示ノ次第ヲ述べ他国政府ニ於テモ夫々右共同電票ノ趣旨ヲ賛成シ在支公使へ回訓ノ運びトモ可成白国政府ニ於テモ右可然考究ノ上相当措置有度旨申述べタルガ外務次官ハ大臣ニモ右報告ス可ク何分ノ措置ヲ執リタル節ハ直ニ小官へ通報ス可シト述べタルガ要スルニ直ニ右趣旨ノ回訓ハ発シ兼ヌルヤニ見受ラレタリ

英米仏伊へ転電セリ

二一八 十一月三日

中山関東庁警務局長ヨリ
塩原外務次官宛

黒龍江省督軍呉俊陞ノ銃器購入依頼ニ関シ報告ノ件

告ノ件

関保親第一六〇六号

(十一月八日接受)

大正十一年十一月三日

関東庁警務局長 中山 佐之助(印)

壇原外務次官殿

吳俊陞銃器購入其ノ他ニ関スル件

首題ノ件ニ関シ管内四平街警務支署長ヨリ左記ノ通報告有之候ニ付為御参考申報候也

記

四洮鐵路局員（日本工学士）程式俊ハ本月六日黒竜江省督軍吳俊陞ノ招電ニ接シ同日午後六時当駅發第七列車ニテ哈爾賓ニ向ケ出發セル其ノ用件ニ付探聞スル所ニ依レハ吳督軍ハ程式俊ニ対シ三八式銃式万挺モーゼル拳銃四百挺ノ購入方ヲ依頼セル趣ニシテ程式俊力カ之ヲ購買ニ関シ洩シタル要旨左ノ如シト云フ

- 一、三八式銃ハ日本大阪ニ於テ之ヲ購買シ大倉組又ハ三井ノ手ヲ經テ輸入セハ難事ニアラス
- 二、大連ヨリ北滿方面ニ密輸入スルニハ南滿線一等寢台車ニ乗シ拳銃ノ如キハ二、三挺乃至四、五挺宛携帯手荷物中ニ納メ輸送セハ車中何等ノ取調ヲモ受ケス今仮ニ大連ニ於テモーゼル拳銃一挺時価百円ニテ購入北滿方面ニ密輸セムカ優ニ一挺能ク百円ノ利得アリト
- 三、日本内地ヨリ銃器密輸ノ方法ハ夜間銃器ヲ陸上ヨリ船

可セシメザル外良策ナキニ付小官ハ税関長ヲシテ陸揚ゲヲ許可セシメザル様説得ニ努ムベキモ此種禁制品ノ輸入取締ニ対スル税関ノ態度往電第六三三號所報ノ通ナルニ付目的ヲ達スルコト困難ナルベク若シ税関ニ於テ陸揚ゲヲ差止メザル場合ニハ小官ニ於テハ遺憾乍ラ何等輸入差止ノ方法ナシ

尚東和公司ハ本月三日神戸着ノ管ナル書面ニテ往電第五九號宇和島丸ノ硝石積戻ノ件ヲ通知スルト同時ニ此種禁制品ノ積出シ注意方山下ニ申送レル趣ナリ
北京、奉天ニ電報済

二二〇 十一月十日 壇原外務次官ヨリ
西野大藏次官宛

營口經由滿洲向軍需品ノ本邦積出ニ関シ關係者ノ注意喚起方依頼ノ件

亞一普通第七六八號

營口宛軍需品積出取締ニ関スル件

近時本邦人ニシテ軍需品及其ノ材料タル禁制品ヲ營口經由滿洲ニ輸入セントシ其ノ都度問題ヲ惹起スル趣ニテ積出前本邦ニテ取締アリ度旨同地領事ヨリ電請有之候処同地税関

六 中国への兵器供給ニ関スル件 二二〇 二二一

中ニ運ヒ箱詰ト為シ板目ハ浸水ヲ防ク為メ蠟引ト為シ船底深ク藁敷ノ下ニ置キ其ノ上ヲ板ニテ被覆シ船底ノ如ク紛ラシ置クモノナリ

四、日本内地ヨリ銃器密輸ノ陸揚地ハ天津方面最モ容易ニシテ從來同地方面ヨリ輸入セラルルモノ多シ

以上真偽判明セス引続キ内偵中ナルモ御参考迄（申、通報先 外務次官、大阪府知事）

二一九 十一月八日 在牛莊清水領事ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

神戸發營口揚輸入禁制品ノ輸入阻止ニ関スル件

第六五號 （十一月八日接受）

七日夕刻東和公司ノ申出ニ依レバ山下汽船会社傭船増穂丸ハ營口揚ノ硝石六十五噸ヲ搭載シ四日神戸ヲ出帆シ十二日当地着ノ予定ナリ荷送人荷受人不明ニシテ同公司ヨリ山下へ至急電照中右滿洲側ノ關係者ハ奉天ノ東亜商会又ハ大信洋行ナランカト思ハル本件硝石輸入關係者判明次第小官ニ於テ極力積戻シ方説諭致スベキモ聞キ入ルコト疑ハシ、本件物品ノ輸入ヲ阻止スルニハ当地税関ヲシテ陸揚ゲヲ許

ニテハ軍用ノモノハ支那陸軍ノ正當許可ヲ經タル護照アルニ非ラサレハ輸入ヲ許可セス又工業用ノ目的ニテ右禁制品ヲ同地ニ輸入スル場合ニハ所屬國領事ヲ經テ奉天政府ノ護照ヲ受ケ仕出地ヨリ当該貨物ヲ積出ス前ニ先ツ關係護照ヲ同地税関ニ提示シ予メ其ノ承認ヲ受ケ置ク事ヲ要スル趣ニ有之候ニ付同地宛右禁制品積出請求者ニ対シテハ右ノ旨御説示相成リ誤解ナキ様可然御措置相成度尚營口航路ハ旬日ヲ出テスシテ終航ト相成候趣ニ付差当リ神戸大阪税関ニ対シテハ右ノ次第電報ニテ至急御示達相成候様致度此ノ段御依頼申進候也

二二一 十一月十六日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛

泰平組合ヨリ湖南督軍ニ軍器売渡契約未了ノ手付金返還方外交部ヨリ申越ニ付請訓ノ件

附屬書 十一月十日附中国外交部ヨリ小幡公使宛

定字第八〇二號公文写

右手付金返還方申越ノ件

機密第五〇四號 （十一月二十一日接受）

大正十一年十一月十六日

在支那

特命全權公使 小幡 西吉(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

泰平組合ヨリ湖南督軍ニ売渡契約未了ノ軍器手付金返還方ニ関スル件

本件ニ関シ顧外交総長ヨリ親シク本使ニ要請ノ次第ハ去ル八月往電第五七六号ヲ以テ報告旁稟請ノ通ナル処十一月十日附書面ヲ以テ重ネテ外交部ヨリ湖南華洋籌賑会ヨリ屢次ノ電報ニ依レハ同省災害ハ昨年ニ比シ更ニ大ナルモノアリ該手付金数十萬元ノ額ヲ以テ多数罹災民救済資金ニ充当セムコトヲ期待セシ処泰平公司ハ遷延未タ交付スルニ至ラス若シ此促推諉シ遂ニ人心ヲ憤激シ惡感ヲ誘起セシメ何等枝節ヲ発生セシムルカ如キコトアラハ日支兩國ノ為執ラサル所ナル旨ヲ叙シ縷々申越ノ次第有之候就テハ泰平組合當事者トモ御協議ノ上篤ト御考量ヲ加ヘラレ本件支那側ニ対スル返答振可成早メニ御回示相成様致度此段申進候也

(附屬書)

十一月十日附中国外交部ヨリ小幡公使宛定字第八〇二号公文写泰平組合ヨリ湖南督軍ニ軍器売渡契約未了ノ手付金返還方ニ関スル件

会等ノ来電ニ依レハ該省ハ昨日ノ旱魃ニ加フルニ今秋ノ水災復タ異常広大ニシテ湖岸ノ十数県悉ク沼沢ト變シ堤防ノ決潰スルモノ八百ヶ所ニ及ヒ成熟セル穀物概シテ損失トナリ房屋流失シ人畜溺死スルモノ無數ナルニ付専ラ該軍器購入金ヲ以テ救済ニ充テムトシ電報督促致来リ事情甚タ切迫ノ状態ニ有之候查スルニ該手付金ハ元ヨリ返還セラルヘキモノニシテ況ヤ該省災害情况ハ昨年ニ比シ更ニ大ナルモノアリ此ノ数十萬元ノ金額ヲ以テ多数災民ヲ救済セント期待セル処該公司等遷延未タ返還スルニ至ラス若シ斯ノ如クニシテ群情ヲ憤激セシメ惡感ヲ誘起スルニ於テハ貴我ノ為ニ執ラサル所ニ有之候就テハ貴公使ヨリ重ネテ該公司ニ命シ可成速ニ遵辦セシメラレ尚至急何分ノ儀御回答相煩度此段得貴意候

二二二 十一月十七日

中山閩東庁警務局長ヨリ
芳沢亜細亜局長外三名各宛

張作霖ノ白系露軍武器購入説ニ付報告ノ件

関機高収第一六二九〇号ノ一

(十一月二十二日外務省接受)

大正十一年十一月十七日

六 中国への兵器供給ニ関スル件 二二三

定字第八〇二号

逕啓者湖南華洋籌賑会請向日商泰平公司等索回購械定金移

作賑款一案迭経本部函請

貴公使転飭遵辦在案迄未准復玆又拠該籌賑会等以該省去年苦旱今秋水災又復異常瀾大浜湖十数県尽成沢国潰浣八百余起成熟穀種概遭損失廬舍人畜漂没無算專恃此項械款以為救済来電切催情形亟迫查此項定金本應退還況該省災情較去年充大專待此数十萬元之款用以救済多数之災黎該公司等延不繳款如果群情憤激發生惡感殊与彼此無益相応再行函請貴公使查照迭次去函迅飭該公司等從速遵辦早日見復寔綏睦誼此勸順頌

日社

外交部 啓 十一月十日

(右和訳文)

拝啓陳者湖南華洋籌賑会カ日商泰平公司等ヨリ軍器購入手付金ヲ回収シテ救卹金ト為サントスルノ件ニ関シテハ屢々本部ヨリ貴公使ニ対シ貴公使ヨリ該公司ニ転飭シ措置セシメラレ度旨照会致置候処未タ御回示ニ接セス然ルニ該籌賑

中山閩東庁警務局長(印)

宮田内閣書記官長殿

芳沢外務省亜細亜局長殿

元田拓殖事務局長殿

土岐在京事務総長殿

張作霖武器購入輸送

首題ノ件ニ関シ探聞スル処ニ依レハ奉天附屬地彌生町二番地茂林飯店ニ投宿中ノ周金声ナル者ハ約半月以前ニ張作霖ノ第五夫人ノ母堂王太太(小南閩丙吉胡同居住)ヨリ武器購入ノ依頼ヲ受ケ綏芬河方面ニ出張シ露国白軍ノ武器買入レニ奔走中ノ処最近歩兵銃二万挺(一銃ニ付彈丸三百発)ヲ一挺大洋幣百参拾五元宛ニテ買収シ其他砲彈爆裂彈若干ヲ買入レ且ツ装甲汽船大小二隻ニ前記武器彈藥ヲ積載シ海路營口ニ輸送シ来ル趣キニテ大約本月十四日頃迄ニハ營口ニ到着スヘキ筈ナリト
因ニ周金声ハ右武器購入ニ対シ二拾萬元ノ報酬ヲ得ル由尙又前記装甲汽船二隻ハ白軍ヨリ張作霖ニ贈与シタルモノナリト而シテ今回ノ武器購入ニ就テハ王老太太ノ名義ヲ以テ購入シ張作霖ノ名義ヲ出サザルハ之外部ノ風評ヲ免レムト

スル手段ナリ

二二三 十二月四日 内田外務大臣ヨリ
在安東富田領事宛(電報)

滿洲鉦業力張作霖ニ対シ小銃彈火薬ヲ供給ス
ヘシトノ報道ニ關シ詳細回電方訓令ノ件

第五五号

朝鮮警務局來報ニ依レハ安東県六道溝滿洲鉦山業株式会社
ハ張作霖ヨリ小銃彈火薬供給ノ依頼ヲ受ケ近ク大規模ニ之
カ製造ニ着手スヘシトノコトナルカ右ハ列国間対支武器供
給禁止協定ノ關係並ニ我對支方針ニ鑑ミ重大ナル影響アル
ニ付同社ノ製品販路ヲ嚴重監視ノ上詳細電報アリ度シ
北京奉天ヘ転電アリ度シ

二二四 十二月八日 内田外務大臣ヨリ
在奉天赤塚總領事宛(電報)

張作霖ノ丁抹及仏国ヨリノ武器購入報道ニ付
事實調査方訓令ノ件

第二〇一号

四日東京日々ハ二日發奉天特電トシテ張作霖カ仏国及丁抹
ヨリ購入セル武器及砲彈製造機ハ更ニ一日営口ヨリ十五輛

第二〇六号

十二月十四日報知北京特電ニ依レバ十一月二十七日張作霖
ト泰平組合トノ間ニ軍器売買契約成立シ泰平組合ハ大正十
二年四月三十日以前ニ歩兵銃十一万八千五百挺彈丸二千八
百万個野砲二十門機關銃二十門騎兵銃二千五百挺ヲ張作霖
ニ交付スル筈ニナリ居ル趣ニシテ武器ハ日本又ハ大連ヨリ
胡蘆島ニ輸送交付スルコト成リ居リ又張ハ保証金トシテ
二十万円ヲ正金及鮮銀ニ供託スヘシトノコトナルガ右ハ果
シテ事實ナルヤ否ヤ至急取調ヘノ上折返シ電報アリタシ
北京ヘ転電アリタシ

註

本件ニ關シ十二月十五日坪上領事ガ泰平組合舟生成蹊氏ニ
來省ヲ需メ事實ノ有無ヲ確メタル処同人ハ全然事實ナキコ
ト並ニ直接ニモ間接ニモ支那ニ武器ヲ供給スル様ノコトナ
キ旨ヲ確言セリ

尚同組合ニテハ事實無根ノ旨報知新聞社ニ申入レ置キタリ
ト電話アリタリ

二二七 十二月十六日 内田外務大臣ヨリ
在中国小幡公使宛(電報)

泰平組合ノ對華武器売渡報道ノ出所確メ方指
令ノ件

六 中国への兵器供給に關スル件 二二七 二三八

ノ貨車ニテ奉天ニ到着シタリト報セリ事實御取調ノ上結果
電報アリタシ

在牛莊領事ヘ転電アリタシ

二二五 十二月八日 在安東富田領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

滿洲鉦業ノ張作霖ニ対スル小銃彈火薬供給説
ハ誤伝ナル旨回申ノ件

第七〇号

(十二月八日接受)

貴電第五五号ニ關シ

取調ベタル処目下同社ニ於テ製造セルハ凡テ鉦山用黑色火
薬及獵用火薬ニシテ主トシテ朝鮮方面、撫順炭坑、大連田
崎銃砲店、奉天銃砲商天和公司ニ供給シ居レルガ張作霖ノ
依頼ニ依リ小銃用彈藥ノ製造ヲ引受ケタリトノコトハ全ク
誤伝ナル旨明石專務ヨリ申出タリ
公使、奉天ヘ転電セリ

二二六 十二月十四日 内田外務大臣ヨリ
在奉天赤塚總領事宛(電報)

泰平組合ト張作霖トノ間ノ武器売買契約成立
説ノ真偽調査方訓令ノ件

第六六四号

在奉天總領事宛往電第二〇六号ニ關シ当地ニ於テ泰平組合
ニツキ取調ヘタル処同組合ハ本件契約ニ全然關係ナク又直
接ニモ間接ニモ支那ニ武器ヲ供給スル様ノコトナシトノコ
トナルガ本件報知ノ特電ノ出所ニ付事實ノ真相ヲ確メ回電
アリ度シ若シ事實無根ノコトヲ打電セルモノナルニ於テハ
向後ニ對シ充分御戒飭相成度シ

二二八 十二月十六日 在上海船津總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

泰平組合及張作霖間ニ武器売買契約成立セリ
トノ中国紙報道ニ對スル措置振ニ付請訓ノ件

第二五五号

(十二月十六日接受)

十二月十六日当地發行ノ申報ハ客月二十七日泰平公司ト張
作霖トノ間ニ軍器売買契約成立シ泰平公司ハ來年四月三十
日迄ニ小銃一万八千五百挺、小銃彈二千八百萬發、野砲二
十門、機關銃二千五百挺ヲ代価金八五萬ヲ以テ東三省保安總
司令ニ売渡ス旨報シ居レルガ事實無根ナルニ於テハ打消ノ
必要アルヘクト存セラルルニ付何分ノ御回訓ヲ請フ
在支公使、奉天ヘ転電セリ

二二九 十二月十六日 在上海船津總領事ヨリ
内田外務大臣宛

泰平組合ト張作霖トノ間ノ武器売買契約ニ関
スル申報記事送付ノ件

附屬書 同日発行ノ右申報記事

機密第三一九号 (十二月二十六日接受)

大正十一年十二月十六日

在上海

總領事 船津 辰一郎(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

張作霖対太平公司軍器売買契約ニ関スル件

本件ニ関シテハ大要往電第二五五号ヲ以テ及報告置候処尚
御参考迄ニ本日発行ノ「申報」記事切抜供貴覽候間詳細ハ
右ニテ御承知相成度此段申進候 敬具

本信写送付先 在支公使 奉天總領事

(附屬書)

十二月十六日発行ノ申報記事

泰平組合及張作霖間武器売買ノ件

奉張与日商簽訂軍械合同

奉天張作霖向外人購壳軍械消息、迭誌前報、茲聞張氏又於

東三省保安總司令、連同保險費貨款、同時交付太平公司、

(第八款) 此項軍械、限定大正十二年四月三十日以前、運
到葫蘆島、逾期一日、罰日金一千元、

(右和訳文)

奉天張作霖、日商ト訂結セル武器売買契約

奉天ノ張作霖カ外国人ヨリ武器ヲ購買スルノ消息ハ屢々前
報ニ記載セリ、茲ニ聞ク張氏又本年十一月二十七日ニ日本
ノ太平公司ト武器売買契約ヲ訂結シ歩兵銃一万八千五百
挺、彈丸二千八百万個、野戰砲二十門、機關銃二十挺、騎
兵銃二千五百挺ヲ購フト、
其契約内容ハ下ノ如シ

(第一款) 太平公司ハ歩兵銃一万八千五百挺、彈丸二千
八百万個、野戰砲二十門、機關銃二十挺、騎兵銃二千五
百挺ヲ東三省保安總司令ニ売渡ス其価額計日本金八十五
万円也

(第二款) 此等ノ武器ハ既ニ完全ニ引渡ヲ約訂ス唯之カ
運搬船ハ須ラク日本或ハ大連ヨリ直接ニ葫蘆島ニ運ヒテ
荷揚スヘシ

(第三款) 此等武器カ未タ葫蘆島ニ到着セサル以前ニ於

本年十一月二十七日与日本太平公司簽訂軍械合同、訂購步
槍一万八千五百枝、子彈二千八百万粒、野戰砲二十尊、機
關槍二十架、騎槍二千五百枝、其合同内容如下、(第一款)
太平公司以步槍一万八千五百枝、子彈二千八百万粒、野戰
砲二十尊、機關槍二十架、騎槍二千五百枝、售与東三省保
安總司令、計価日金八十五萬元、(第二款) 此項軍械、既
經完妥、準訂交到、惟運貨之船、須由日本或大連直接運至
葫蘆島交卸、(第三款) 此項軍械未到葫蘆島以前、一切責
任、由太平公司完全負担、(第四款) 訂定合同之後、東三
省保安總司令應即以日金二十萬元、存在正金朝鮮兩銀行、
為保証金、俟此項軍火運到葫蘆島之時、東三省保安總司令
即應將価銀保險銀及運費、一併交付太平公司、(第五款)
如太平公司將此項軍械運到、東三省保安司令忽然變更不肯
接收、或因款項未便、不能接收、應賠償太平公司損失日金
二十萬元、即由保証金項下扣撥、此項保証金於太平公司承
辦軍火未到以前、雙方均不准動用(第六款) 保險費計日金
一万三千元於該貨起運之時、先由太平公司墊付、俟抵葫蘆
島時、連同貨款一併付給(第七款) 運費日金一万八千元、
於該貨起運之時、由太平公司暫為代付、抵葫蘆島後、應由

テハ一切ノ責任ハ太平公司ヨリ完全ニ負担ス

(第四款) 契約訂結後東三省保安總司令ハ應ニ直ニ日本
金二十万円ヲ正金、朝鮮兩銀行ニ預入シ保証金ト為スヘ
シ此等武器カ葫蘆島ニ到着スルノ時ヲ俟チテ東三省總司
令ハ直ニ應ニ代金保険料及運賃ヲ同時ニ太平公司ニ交付
スヘシ

(第五款) 若シ太平公司此等武器ヲ積送シ東三省保安司
令忽然違約シテ受取ルヲ肯セス或ハ代金調達不如意ノ為
受取ルコト能ハサレハ應ニ太平公司ノ損失日本金貨二十
万円ヲ賠償スヘク直ニ保証金ヨリ引出シ支払フヘシ此ノ
保証金ハ太平公司ノ引受ケタル武器カ未タ到着セサル以
前ニ於テハ当事者双方共ニ流用スルヲ許サス

(第六款) 保険料計日本金貨一万三千元ハ該武器積出ノ
時ニ先太平公司ヨリ立替エ支払ヒ葫蘆島ニ到着後該武器
代価ト共ニ同時ニ支払フ

(第七款) 運賃日本金一万八千元ハ該貨積出ノ時ニ太平
公司ヨリ暫時代リテ支払ヒ葫蘆島到着後應ニ東三省保安
總司令ハ保険料、代金ト共ニ同時ニ太平公司ニ交付スヘ
シ

(第八款)此等武器ハ大正十二年四月三十日以前ニ必ラス葫蘆島ニ到着スヘシ期限一日タモ越ユレハ日本金貨一千円ヲ罰ス

二二〇 十二月十八日 内田外務大臣ヨリ 在上海船津総領事宛 (電報)

泰平組合ノ対華武器売渡報道取消方回訓ノ件

第一四七号

貴電第二五五号ニ関シ

泰平組合ニツキ事実ノ有無ヲ確メタル所全然無根ナル趣ニ付新聞取消方可然取計ハレタシ

二二一 十二月十八日 在奉天赤塚総領事ヨリ 内田外務大臣宛 (電報)

泰平組合ト張作霖トノ間ノ武器売買契約成立

説ハ事実無根ノ旨回報ノ件

第四五九号

(十二月十八日接受)

貴電第二〇六号ニ関シ当地ニテ取調タル処其事実ヲ認メス或ハ目下秦皇島天津両所ニ保存シアル伊太利軍器ヲ奉天側ニ入手セムトスル懸念ニ対スル直隸側ノ牽制の宣伝ニアラスヤトモ察セラル

記事取消ニ関スル件

附屬書 十二月十九日附申報社長回答及右契約事実無根ナル旨ノ申報掲載記事

公信第九二三号

(十二月二十七日接受)

大正十一年十二月二十日

在上海

総領事 船津 辰一郎 (印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

張作霖対太平公司兵器売買契約ニ関スル新聞記事取消

ニ関スル件

本件ニ関スル貴電第一四七号御訓電ニ基キ昨日申報社長史量才ニ書面ヲ以テ該記事取消方申込タル処同人ヨリ別紙写ノ通り回答有之該記事ハ本月十四日北京発行益世報記事ヲ転載シタルモノノ由ニテ本日発行ノ申報紙上ニ別紙切抜ノ如ク事実無根ノ旨掲載致居候右何等御参考迄及報告候

敬具

本信写送付先、在支公使 青島総領事

(附屬書)

十二月十九日附申報社長回答及泰平組合対張作霖兵器売買契約事実無根ナル旨ノ申報掲載記事

六 中国への兵器供給ニ関スル件 二二四

二二三 十二月十九日 在奉天赤塚総領事ヨリ 内田外務大臣宛 (電報)

張作霖ノ丁抹ヨリノ武器購入報道ニ付査報ノ件

第四六一号

(十二月十九日接受)

貴電第二〇一号ニ関シ奉直開戦以前契約済ナリシ丁抹兵器製造機械ハ十一月十二日營口ニ入港シタル「マレーヤ」号ニ積載セラレ小蒸汽船ニ積替ヘテ十六日ヨリ河北鎮ニ陸揚ヲ開始シ約一週間ニテ完了三十一日頃迄ニ全部奉天京奉線駅ニ到着シタリ今回到着荷物ハ合計五百余梱ニ包装サレ小銃、大砲、砲彈、機関銃ノ四部ヨリ成リ何レモ独逸漢堡製品ニシテ今(脱)註文シタル数量ノ半部ニ過キス半部ハ更ニ明年三月頃到着ノ予定ニテ之カ据付工事、技師渡来等ノ為工事完成ハ八九月頃迄要スヘク註文価額ハ総体百八十万円見当ナリトノコトナリ

尚本月十二日附機密公第一〇〇号報告張作霖カ上海ヨリ武器購入ノ件ハ事実ナリ

二二三 十二月二十日 在上海船津総領事ヨリ 内田外務大臣宛

泰平組合対張作霖兵器売買契約ニ関スル新聞

敬覆者接奉

惠書祇悉種切竊按敝館深荷

雅愛交誼素篤對於記載新聞焉肯憑空虛造查本月十六日之該項新聞係轉載十四日北京益世報茲接

来示云々適於二十日報端更正專此奉復祇請

台照並頌

公綏

史量才啓十二月十九日

日商与奉張簽訂軍械不確

本月十六日国内要聞欄、転録北京益世報奉張与日商簽訂軍械合同一則、茲由各方面探聴、並無此事、合為更正、

二三四 十二月二十一日 中山関東庁警務局長ヨリ 芳沢亜細亜局長外二名各宛

東支鉄道ヲ繞ル赤軍ノ動キ並吳佩孚トノ關係

ニ関スル浜面中將及張作霖間会谈報告ノ件

関機高収第一八二五号ノ一

(十二月二十七日外務省接受)

大正十一年十二月二十一日

中山関東庁警務局長 (印)

宮田内閣書記官長殿
芳沢亜細亜局長殿
元田拓殖事務局長殿

浜面中将ト張作霖ノ会見談

這回出奉中ノ浜面中将ト張作霖トノ会見談ニ依レハ張作霖ハ東支鉄道ノ赤化ヲ憂慮シ露国カ武力ヲ以テ東支鉄道占領ヲ企ツルヤニ聞及ヒ露国軍隊ノ精否ニ付同中将ニ尋ネタル処同中将ハ露国赤軍ハ精銳ニシテ支那軍隊ノ如キハ其眼中ニナキモ自ラ武力ニ訴ヘテ東支鉄道ノ占領ヲ敢テスル事ハナササルヘシ何トナレハ東支問題ハ武力ヲ以テ解決スルニ都合悪キ性質ノモノナリト答ヘタルニ張作霖ハ吳佩孚ハ赤露ト相呼応シ奉天側ヲ陥レントスル企図アルニ依リ余（張作霖）ハ寧ロ吳ニ先ンシテ赤露ト結ヒ後顧ノ患ヲ絶チ置ク事モ一策ト思フ

同中将ハ吳張何レニセヨ露国ト結ヒテ内乱ヲ醸成スルカ如キ拳ニ出シカ右ハ売国の行為ナレハ天下ノ同情ヲ失ヒ結局自滅ヲ招クニ至ルヘシ張作霖カ此辺ノ事情ヲ顧慮シ乍ラ吳佩孚ト和スル事ノ出来サルハ不可解ナリ張作霖ハ既ニ往年ノ仇敵タリシ徐樹錚トモ手ヲ握レル今日吳佩孚ト和解出来

事項七 第一次奉天及直隸兩派間抗戰ニ関スル件

二三五 一月六日 内田外務大臣ヨリ
在中国小幡公使宛（電報）

奉天派及直隸派兩軍ノ衝突不可避ナルベキヤ
ノ情報ニ鑑ミ中国政局ノ現況並将来ニ対スル
觀測至急提示方訓令ノ件

第一一号

張作霖カ中央ニ対シ政治的野心ヲ抱藏スルハ曩ニ張ヨリ赤塚総領事ヲ通シ我方ニ武器ノ供給ヲ依頼シ来レル際ノ口吻ニ依ルモ看取シ得タル所ナルガ今回張ノ入京ト云ヒ旧交通系ト結託シ梁士詒内閣出現ニ至レル事情ト云ヒ張ノ野心益々其鋒鋷ヲ露ハシ来ルヤニ認メラレ或ハ裡面ニ更ニ重大ナル画策ノ歩ヲ進メ居ルニアラザルヤ疑ハシムル処張ハ暗々裡ニ南方特派文一派ト結ヒ南北ヨリ曹錕吳佩孚ニ圧迫ヲ加ヘ彼等ノ勢力ヲ推倒サムトノ計画ヲ廻ラン居リ只目下直隸軍ノ大部分南方ニ出征シ後方残留兵力ノ微弱ナルニ顧ミ曹錕ハ差当リ出来得ル限り隱忍スヘキモ右ノ形勢ニ鑑ミ曹錕ハ今後出征軍隊ノ引上ニ専心スヘク其ノ結果吳佩孚ノ

七 第一次奉天及直隸兩派間抗戰ニ関スル件 二三五

サル理由ナシ互ニ感情ヲ去ラハ和議直チニ成ラント忠告シタル処張作霖曰ク吳ハ不俱戴天ノ敵ナリ和解望ナシ但シ今日ノ処奉天側ヨリ攻勢ヲ取ル事ハナササルモ第三国ヨリ武器ヲ購入シタリ之カ為外國ニ支払ヒタル金額九百万円ニ達セリ最近仏国ヨリ購入シタルモノハ独逸ノ武器ナルカ營口税関ハ是ヲ差押ヘントシタルニ付若シ税関カ差押ヲ決行セハ自分ハ同税関ヲ直チニ撤廢シ自分ノ手ニ依リテ新ニ税関ヲ組織スヘシト嚴談シタル結果税関ハ総稅務司ニ訓令ヲ仰キ該武器ノ通関ヲ默許スルニ至レリト語り日本カ武器ノ讓渡ヲナササル事ニ対シ荐リニ不平ヲ並ヘ居タリト

軍隊ガ洛陽方面ニ引揚集中セラレタル曉ハ奉直兩軍ノ衝突ハ到底免ルヘカラサル数ニシテ恐ク右引揚ノ了ルヘキ本年二三月頃カ最モ危険ノ時機ナルヘシトノ觀測洽ク行ハレ居ル趣ノ情報モアリ果シテ如斯形勢ナリトセハ其ノ成行ニ対シテハ対支政策上甚深ノ注意ヲ要スルハ勿論差当リ最近北京政府ヨリ申出アリタル借款問題ニモ自然特殊ノ考慮ヲ加ヘサルヘカラサルヤニ認メラルルニ付現在政局ノ模様並ニ将来ニ対スル貴官ノ觀測至急電報アリタシ

（欄外註記）

「張ノ活動ヲ内政上ノ見地ヨリ觀測スレバ正ニ斯クノ如シ然ルニ他方之ヲ國際干係ヨリ見ルトキハ次ノ如キ推測ヲ下スコトヲ得ヘシ即チ
華府會議ノ結果ハ滿蒙ニ於ケル日本ノ地位ヲ一層鞏固ナラシメントスルノ傾向ナキニシモアラズ依テ張ハ将来滿蒙ニ於ケル日本ノ發展ヲ恐レ南方孫文杯ト氣脈ヲ通ジ所謂二十一条條約ニ対スル反對論ヲ起シ之ニヨリ支那全般ノ反日氣勢ヲ昂メ梁内閣ニヨリ南北ノ統一ヲ計ラントスルニアラズヤ此見地ヨリセバ直隸派ノ如キモ大勢上寧ロ之ニ和シ左程ノ変乱ヲ惹起スルガ如キコトハ無之カルベシ況ンヤ目下支那ノ立場ヨリス